

既設小學校ノ編制ニシテ第三十五條ヲ除ク外第一章第三節ノ規定ニ牴觸スル場合ニ於テ特別ノ事情アルトキハ市町村、町村學校組合又ハ設立者ニ於テ期間ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受ケ同節ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第二百十四條 既設ノ補習科ニ於テ第一章第四節ノ規定施行ノ際現ニ其ノ教科ヲ學習スル兒童ニ就キテハ其ノ兒童ノ修了スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第二百十五條 本令施行前府縣知事ニ於テ採定シタル小學校教科用圖書ハ本令施行後仍其ノ效力ヲ有ス第六十條ノ規定ニ依リ學年開始前公布ヲ爲スヘキ期間ハ本令施行ノ日ヨリ明治三十四年三月三十一日マテハ六十日トス

第二百十六條 本令施行前府縣知事ニ於テ定メタル規程ニ依リ編製シタル學齡簿及學籍簿ハ第三章ノ規程ニ依リ編製シタルモノト看做ス

第二百十七條 本令施行前ニ授與シタル小學校教員免許狀及之ト同一ノ效力ヲ有スル小學校師範學科卒業證書ハ本令ノ規定ニ依ル小學校教員免許狀中之ニ相當スルモノト同一ノ效力ヲ有ス

第二百十八條 本令施行前從前ノ規程ニ依リ休職ヲ命セラレタル教員ノ休職期間ハ仍從前ノ例ニ依ル

第二百十九條 市町村立小學校教員ノ俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關シテハ本令施行ノ日ヨリ明治三十四年三月三十一日マテハ府縣知事ニ於テ定メタル從前ノ規程ニ依ル

第二百二十條 本令施行ノ際現ニ學務委員ノ職ニ在ル者ニシテ公民中ヨリ選舉セラレ任期アル者ハ任期ノ滿了マテ其ノ職ヲ失フコトナシ其ノ任期ナキ者ハ本令施行ノ日ヨリ第百八十四條第一項ノ任期ヲ起算ス

本令施行ノ際現ニ學務委員ノ職ニ在ル者ノ數第百八十二條ニ規定シタル制限ニ超過スルトキハ抽籤

ニ依リテ退職者ヲ定ムヘシ

第二百二十一條 第八章ノ規定施行ノ際現ニ代用中ノ私立小學校ノ代用ニ關シテハ協議ニ依リ定メタル期間ノ滿了マテ仍從前ノ例ニ依ル

第二百二十二條 既設幼稚園ニシテ第二百六條及第二百八條ノ規定ニ依リ難キトキハ期間ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受ケ之ニ依ラサルコトヲ得

第二百二十三條 明治二十四年文部省令第九號、同第十四號、同第十六號、同第十八號乃至同第二十三號、明治二十六年文部省令第二號、同第三號、明治二十七年文部省令第一號、同第九號、明治二十九年文部省令第十號、同第十一號、明治三十二年文部省令第三十號、同第三十二號、同第三十七號ハ之ヲ廢止ス

明治二十七年文部省令第二十六號中補習科ニ關スル規定、明治二十四年文部省令第一號、同第四號、同第八號、同第十號乃至同第十三號、明治二十五年文部省令第七號、明治二十六年文部省令第九號、明治三十年文部省令第二號ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ廢止ス

附屬表(略ス)

明治四十年文部省令第六號附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス但シ第二十九條第二項、第三十一條、第四十條、第四十八條、第五十二條、第九十七條、第百十六條、第百七十六條、第百八十三條及第八章ノ改正ハ明治四十年四月一日ヨリ施行ス

明治四十年勅令第五十二號附則第四項ノ教科目ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル但シ管理者又ハ設立者ニ

於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ本令ノ規定ヲ斟酌スルコトヲ得  
地理ノ授教ノ程度ニ關シテハ從前ノ規定ニ依リ編纂シタル教科用圖書ヲ使用スル間ハ仍從前ノ例ニ依  
ル

本令施行ノ際存在スル補習科ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

本令施行前第十四條第一項ニ依リ授與シタル證明書ノ效力ハ仍從前ノ規定ニ依ル

市町村又ハ町村學校組合ハ當分ノ内府縣知事ノ認可ヲ受ケ本令施行ノ際現ニ高等小學校ニ於テ徵收ス  
ル授業料額ノ範圍内ニ於テ尋常小學校第五學年及第六學年ノ授業料額ヲ定メ之ヲ徵收スルコトヲ得

明治四十年勅令第五十二號附則第二項ニ依リ存続スル代用私立小學校ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル  
明治四十年勅令第五十二號附則第三項ニ依ル尋常小學校ノ兒童ノ學籍簿ハ仍從前ノ様式ニ依ルコトヲ  
得

○市町村立小學校授業料ニ關スル件 明治二十九年二月六日  
勅令第五號

朕市町村立小學校授業料ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 戰地ニ於ケル勤務ニ起因シテ死去シタル者ノ遺族ニシテ左ニ掲クル者ニ對シテハ市町村立小

學校ニ於テ授業料ヲ徵收セサルモノトス

一 軍人恩給法第二十七條第一ニ該當スル者及第四十條ニ掲ケタル者ニシテ第二十七條第一ニ該當  
スル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹

二 官吏遺族扶助法第四條第二項ニ該當スル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹

三 明治二十七年勅令第六十四號第一條第一項ニ該當スル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹

前項ノ遺族ニシテ扶助料ヲ受クヘキ者ナキモ死者ノ前項ニ該當シタル事實明白ナルトキハ其ノ同籍  
内ニ在ル弟妹ニ對シ前項ヲ適用ス

第二條 戰地ニ於ケル勤務ニ起因シテ軍人恩給法第九條第十四條又ハ官吏恩給法第三條ニ該當スル者  
又ハ戰地ニ於テ傷痍ヲ受ケ疾病ニ罹リ明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ手當金ヲ受クル者又ハ

公務ニ依リ從軍シタル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹ニ對シテハ市町村會ノ議決ニ依リ市町村立小學校  
ニ於テ授業料ヲ減額シ又ハ之ヲ徵收セサルコトヲ得

第三條 本令ニ依リ減額シ又ハ徵收セサル授業料ニシテ已ニ納付濟ノモノハ還付セサルモノトス但市

町村會ニ於テ還付ノ議決ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニアラス

○市町村立小學校教育費國庫補助法 明治三十三年三月十五日(改正四二年)  
法律第六十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル市町村立小學校教育費國庫補助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

市町村立小學校教育費國庫補助法

第一條 市町村立小學校教育費ヲ補助スル爲國庫ハ毎年豫算ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ支出ス

第二條 前條ノ補助金ハ市町村立小學校教員ノ年功加俸及市町村立尋常小學校教員ノ特別加俸ニ充ツ  
其ノ加俸ニ關スル方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

市町村立小學校授業料ニ關スル件 市町村立小學校教育費國庫補助法

第三條(四二年法五號) 第一條ノ補助金ハ其ノ半額ハ市町村立小學校ノ本科正教員數ニ他ノ半額ハ市町村立小學校ノ本科正教員ニシテ五年以上同一府縣内ニ勤績スル者ノ數ニ比例シテ之ヲ北海道及府縣ニ配賦ス

附則

- 第四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス
- 第五條 市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法及小學校教育費國庫補助法ハ之ヲ廢止ス
- 第六條 本法施行ノ際市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法ニ依リ現ニ年功加俸ヲ受クル者ニハ同一學校ニ勤績スル間仍其ノ加俸ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ本法ニ依リ年功加俸ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ニ依リ支給スル金額ハ第三條ノ配賦金ヨリ支出ス

○市町村立小學校教員加俸令 明治三十三年三月三十日(改正四二年勅)

朕市町村立小學校教員加俸令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

市町村立小學校教員加俸令

- 第一條 沖繩縣ヲ除クノ外府縣ハ市町村立小學校教育費國庫補助法第三條第二項ノ下付金ヲ以テ市町村立小學校教員加俸資金トナシ特別會計ヲ設置スヘシ
- 前項ノ資金ハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

第二條 市町村立小學校教員加俸資金ヨリ生スル收入ハ之ヲ資金ニ編入スヘシ

第三條(四二年勅) 小學校教員ニシテ五年以上同一府縣内ノ市町村立小學校ニ勤績シ地方長官ニ於テ成績佳良ナリト認メタル者ニハ年功加俸ヲ給ス

年功加俸ハ本科正教員ニ在リテハ年額二十四圓乃至三十六圓トシ專科正教員及准教員ニ在リテハ年額十二圓乃至二十四圓トス但シ年功加俸ヲ受ケタル後勤績五年ヲ加フル毎ニ本科正教員ニ在リテハ年額十八圓乃至二十四圓專科正教員及准教員ニ在リテハ年額十二圓乃至十八圓ヲ加フルコトヲ得

第四條 兵役ニ服スル爲其ノ職ヲ去リタル者兵役ヲ終リタル後九十日以内更ニ就職シタルトキハ前後ノ在職年數ヲ勤績年數ニ通算ス學校ノ廢止若ハ學校編制ノ變更ニ因リ退職シタル者六十日以内更ニ就職シタルトキ亦同シ

第五條 師範學校訓導ニ在職シタル年數ハ之ヲ勤績年數ニ通算ス

第六條(同上) 年功加俸ヲ受クル者懲戒處分ヲ受ケタルトキハ年功加俸ノ一部又ハ全部ノ支給ヲ停止スルコトヲ得

年功加俸ヲ受クル者ニシテ地方長官ニ於テ成績佳良ナラスト認メタルトキハ年功加俸ノ支給ヲ止ム

第七條(同上) 市町村立尋常小學校ノ本科正教員ニシテ單級學校ニ勤務スル者ニハ年額三十六圓以下ノ特別加俸ヲ給ス

市町村立尋常小學校ノ本科正教員ニシテ多級學校ノ一學年乃至四學年又ハ五學年ヲ以テ編制シタル學級ヲ擔任スル者ニハ二十四圓以下ノ特別加俸ヲ給スルコトヲ得

市町村立尋常小學校ノ本科正教員ニシテ僻陬ノ地ニ勤務スル者ニハ年額十八圓以下ノ特別加俸ヲ給

市町村立小學校教員加俸令

スルコトヲ得但シ前二項ニ依リ特別加俸ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス  
僻陬地ノ市町村立尋常小學校ノ本科正教員ニシテ前三項ニ依リ特別加俸ヲ受ケ五年以上同一學校ニ  
勤績スル者ニハ年額十八圓以下ヲ加給ス

第八條 小學校令ヲ施行セサル地方ニ於ケル訓導及訓導ノ資格アル學校長ハ本令ニ於テハ本科正教員  
ト看做ス

第九條 市町村立小學校教員加俸給與ニ關スル細則ハ地方長官之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 市町村立小學校教育費國庫補助法第六條第一項ニ依リ支給ヲ受クル者ニシテ本令第三條第  
一項ニ依リ年功加俸ヲ受ケ其ノ額同法ニ依リ受クル額ヨリ寡キトキハ同一學校ニ勤績スル間其ノ差  
額ヲ加給ス

### ○市町村立小學校教育費國庫補助法第三條ノ市町村立小學校

ノ本科正教員ノ員數及五年以上同一府縣内勤績者數

明治四十二年三月十八日  
文部省令第九號

市町村立小學校教育費國庫補助法第三條ノ市町村立小學校ノ本科正教員數及市町村立小學校ノ本科正  
教員ニシテ五年以上同一府縣内ニ勤績スル者ノ數ハ補助金ヲ配賦スヘキ年ノ前年三月末日ニ於ケル現

在數ニ依ルモノトス

附則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ○市町村立小學校教育費ヲ補助セシムル爲北海道地方費及府

縣費支出ノ件 明治四十年五月二十五日  
勅令第二百十七號

朕市町村立小學校教育費ヲ補助セシムル爲北海道地方費及府縣費支出ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ  
ム

第一條 北海道地方費及府縣ハ市町村立小學校教育費ヲ補助スル爲市町村立小學校教育費國庫補助法

ニ依リ配賦スル金額ト同額ノ金額ヲ支出スヘシ但シ沖繩縣ニ於テハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第二條 前條ノ金額ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ地方ノ情況ニ應シテ之ヲ市町村立小學校教員加俸ノ支出

ニ充テ又ハ市町村立小學校教員住宅費ノ補助ニ充ツヘシ

前項補助ノ方法ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

特別ノ事情ニ依リ本令ノ支出ヲ爲シ難キ場合ニ於テハ期間ヲ定メテ文部大臣ノ認可ヲ受ケ當分ノ内支  
出金額ヲ減少スルコトヲ得

市町村立小學校教育費國庫補助法第三條ノ市町村立小學校ノ本科正教員ノ員數及五年以上同  
一府縣内勤績者數 市町村立小學校教育費ヲ補助セシムル爲北海道地方費及府縣費支出ノ件

○市町村立小學校教員住宅費補助ニ關スル規程

明治四十年九月二十六日(改正四一年) 文部省令第三十號

市町村立小學校教員住宅費補助ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

市町村立小學校教員住宅費補助ニ關スル規程

第一條 明治四十年勅令第二百十七號第二條ニ依リ北海道地方費及府縣ニ於テ市町村立小學校教員住宅費ニ補助スル場合ハ本令ノ規定ニ依ルヘシ

第二條 住宅費補助ハ教員ノ住宅ヲ建設シ又ハ教員ニ住宅料ヲ給與シ若ハ教員ニ住宅ヲ供給スル爲メ賃借料ヲ支拂フ場合ニ於テ市町村、町村學校組合又ハ其ノ區ニ對シテ之ヲ爲スモノトス(四一年) 前項補助ノ歩合及條件並補助金交付ノ方法ハ地方長官之ヲ定ム

第三條 住宅費補助金ノ殘餘ハ市町村立小學校教員加俸令ニ依ル加俸資金ニ編入スヘシ

第四條 本令中市町村、町村學校組合及其ノ區ニ關スル規定ハ市町村制ヲ施行セサル地方ノ小學校設置區域ニ適用ス

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

○教育基金令

明治三十二年十一月二十一日(改正三十四年勅令第五百五號三六年勅令第四百三十五號) 勅令第四百三十五號

朕教育基金令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

移住

○北海道移住民規則

明治三十九年七月三日 內務省令第二十二號

明治三十年四月拓殖務省令第三號北海道移住民規則左ノ通改正ス

北海道移住民規則

第一條 開墾ノ目的ヲ以テ團結規約ヲ締結シ又ハ組合ヲ組織シ若ハ單獨ニテ北海道ニ移住シ土地ノ賃付ヲ出願セントスルモノハ現住地ノ府縣知事ニ出願シテ證明ヲ受クルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ出願スルトキハ左ノ事項ヲ掲記シ府縣知事ニ差出スヘシ

- 一 事業ノ目的(開墾牧畜)
- 二 貸付出願ノ地積
- 三 移住ノ戸口
- 四 從來ノ職業
- 五 總代人ヲ設ケタルトキハ其ノ氏名
- 六 移住後ニ於ケル隣保救護ノ方法ヲ設ケタルトキハ其ノ方法
- 七 移住旅費家屋農具衣食等ノ準備並ニ支出ノ方法
- 八 小作ノ方法ニ依ル場合ハ前各項ノ外小作契約
- 九 團結規約

第三條 第一條ノ願出アリタルトキハ府縣知事ハ之ヲ調査シ確實ト認ムルモノニ限り證明ヲ與フヘシ

第四條 團結移住者ニシテ前條ノ證明ヲ受ケタルモノノ爲メニ北海道廳長官ハ別ニ定メタル規定ニ從

○市町村立小學校教員住宅費補助ニ關スル規程

明治四十年九月二十六日 (改正四十二年  
文部省令第三十號) (改正省一九號)

市町村立小學校教員住宅費補助ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

市町村立小學校教員住宅費補助ニ關スル規程

第一條 明治四十年勅令第二百十七號第二條ニ依リ北海道地方費及府縣ニ於テ市町村立小學校教員住宅費ニ補助スル場合ハ本令ノ規定ニ依ルヘシ

第二條 住宅費補助ハ教員ノ住宅ヲ建設シ又ハ教員ニ住宅料ヲ給與シ若ハ教員ニ住宅ヲ供給スル爲メ借料ヲ支拂フ場合ニ於テ市町村、町村學校組合又ハ其ノ區ニ對シテ之ヲ爲スモノトス (四一年  
省一九號)

前項補助ノ歩合及條件並補助金交付ノ方法ハ地方長官之ヲ定ム

第三條 住宅費補助金ノ殘餘ハ市町村立小學校教員加俸令ニ依ル加俸資金ニ編入スヘシ

第四條 本令中市町村、町村學校組合及其ノ區ニ關スル規定ハ市町村制ヲ施行セサル地方ノ小學校設置區域ニ適用ス

附則

本令ハ明治四十一年四年一日ヨリ施行ス

○教育基金令

明治三十二年十一月二十一日 (改正三十四年勅令五五號三六號  
勅令第四百三十五號) (改正五十七號三十七年勅令一六七號)

朕教育基金令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

欠

MISSING

## 移住

### ○北海道移住民規則

明治三十九年七月三日  
內務省令第二十二號

明治三十年四月拓殖務省令第三號北海道移住民規則左ノ通改正ス

#### 北海道移住民規則

第一條 開墾ノ目的ヲ以テ團結規約ヲ締結シ又ハ組合ヲ組織シ若ハ單獨ニテ北海道ニ移住シ土地ノ貸付ヲ出願セントスルモノハ現住地ノ府縣知事ニ出願シテ證明ヲ受クルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ出願スルトキハ左ノ事項ヲ掲記シ府縣知事ニ差出スヘシ

- 一 事業ノ目的(開墾牧畜種植)
- 二 貸付出願ノ地積
- 三 移住ノ戸口
- 四 從來ノ職業
- 五 總代人ヲ設ケタルトキハ其ノ氏名
- 六 移住後ニ於ケル隣保救護ノ方法ヲ設ケタルトキハ其ノ方法
- 七 移住旅費家屋農具衣食等ノ準備並ニ支出ノ方法
- 八 小作ノ方法ニ依ル場合ハ前各項ノ外小作契約
- 九 團結規約

第三條 第一條ノ願出アリタルトキハ府縣知事ハ之ヲ調査シ確實ト認ムルモノニ限り證明ヲ與フヘシ

第四條 團結移住者ニシテ前條ノ證明ヲ受ケタルモノノ爲メニ北海道廳長官ハ別ニ定メタル規定ニ從



ヒ其ノ出願ニ依リ開墾地ノ豫定存置ヲ爲スコトアルヘシ

第五條 團結移住者ニシテ證明ヲ受ケタル後一箇年ヲ經過シタルトキハ豫定存置ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス  
第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニアラサレハ府縣ニ於テ北海道ニ移住スヘキ小作人ヲ募集シ又ハ小作人ヲシテ北海道ニ移住セシムルコトヲ得ス

一 國有未開地ノ貸付許可書又ハ北海道廳長官北海道廳支廳長ノ證明書ヲ有スル本人又ハ代理人  
二 北海道移住民ノ募集ヲ業トスル者ニシテ其募集人員ニ付豫メ北海道廳長官ノ認可ヲ受ケタルモノ  
第七條 當該官吏又ハ市町村吏員ヨリ前條ノ指令書ヲ示スヘキコトヲ命シタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス  
第八條 第六條第七條ニ違背シタル者ハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス  
第九條 第六條ニ依ル小作人ノ募集又ハ移住ヲ妨害シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

○北海道移住民ニ關スル規程 明治三十九年十一月十九日 內務省訓令第十八號

明治三十年<sup>四</sup>月拓殖務省訓令第十六號ヲ左ノ通り改正ス 北海道廳 府 縣

- 一 北海道廳長官ハ隨時北海道拓殖ニ關スル必要ノ事項ヲ府縣知事ニ通知スヘシ
- 二 前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ府縣知事ハ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ管内ニ公示スヘシ
- 三 一時ニ多數ノ移住者北海道へ出發セントスルトキハ府縣知事ハ其取締保護ニ注意シ豫メ到著港及到著豫定期日ヲ北海道廳長官ニ通知スヘシ
- 四 北海道移住民規則第三條ニ依リ團結移住者ニ對シテ證明シタルトキハ府縣知事其事項ヲ七日以内ニ北海道廳長官ニ通知スヘシ

五 府縣ニ於テ北海道移住民ニ關スル事項ヲ規定シタルトキハ其重要ト認ムヘキモノハ之ヲ北海道廳長官ニ通知スヘシ

○北海道移住民ニ對スル汽車汽船ノ特別取扱方 明治三十九年五月二十八日 內務省告示第五十七號

(改正 四〇年告示二、一八、三一、五〇、一一二號四) 一年告示一五二〇、三一、四五號四二年告示九號

北海道移住民ニ對スル汽車汽船ノ特別取扱方左ノ通改正ス

第一條 北海道移住民ニシテ汽車汽船ノ特別取扱ヲ受ケントスル者ハ居住地ノ府縣、島廳、郡市區役所、警察署又ハ地方長官ニ於テ指定シタル警察分署、町村役場ニ申出テ割引券ノ下付ヲ請フヘシ  
居住地ニ於テ割引券ヲ受ケサル者ハ旅行先ノ當該官公署ニ其ノ交付ヲ請フコトヲ得

第二條 前條ノ割引券ヲ携帶スル者ハ移住ノ往路ニ限り左ノ區別ニ依リ無賃又ハ割引ヲ以テ乘車乘船スルコトヲ得但シ汽車汽船トモ三等ニ限ル(四〇年告示一、一二號)

汽車汽船所屬	無賃又ハ割引額
遞信省所管ノ鐵道汽船	五割引
佐野鐵道株式會社ノ鐵道	五割引
上野鐵道株式會社ノ鐵道	五割引
川越鐵道株式會社ノ鐵道	五割引
青梅鐵道株式會社ノ鐵道	五割引
豐川鐵道株式會社ノ鐵道	五割引
成田鐵道株式會社ノ鐵道	五割引
中越鐵道株式會社ノ鐵道	五割引
南海鐵道株式會社ノ鐵道	五割引
東武鐵道株式會社ノ鐵道	五割引
龍ヶ崎鐵道株式會社ノ鐵道	五割引
河南鐵道株式會社ノ鐵道	五割引
中國鐵道株式會社ノ鐵道	五割引

高野鐵道株式會社ノ鐵道 五割引  
 尾西鐵道株式會社ノ鐵道 三割引  
 豆相鐵道株式會社ノ鐵道 五割引  
 近江鐵道株式會社ノ鐵道 五割引  
 水戸鐵道株式會社ノ鐵道 五割引  
 伊豫鐵道株式會社ノ鐵道 五割引  
 上武鐵道株式會社ノ鐵道 五割引  
 遞信省所管北海道所在ノ鐵道 無賃  
 日本郵船株式會社ノ汽船 五割引(神戶小樽線三割引)  
 大阪商船株式會社ノ汽船 五割引  
 阿波共同汽船株式會社ノ汽船 五割引  
 中越汽船株式會社ノ汽船 五割引  
 宇和島運輸株式會社ノ汽船 五割引  
 川之石汽船株式會社ノ汽船 五割引  
 東洋汽船株式會社ノ汽船 五割引  
 住友別子鑛業所ノ汽船(御代島丸) 五割引  
 富山縣出澤與次兵衛ノ汽船 五割引  
 富山縣濱岡彌次兵衛ノ汽船 五割引  
 富山縣岡本次郎吉ノ汽船 五割引

富山縣慶野宗八ノ汽船 五割引  
 富山縣船本與右衛門ノ汽船 五割引  
 富山縣石本與次郎ノ汽船 五割引  
 富山縣久和六助ノ汽船 五割引  
 長崎縣松田精一ノ汽船(常盤丸、丸對島丸) 五割引  
 長崎縣菊池喜三郎ノ汽船(明事丸) 五割引  
 長崎縣藤野小十郎ノ汽船(防長丸、高知丸、源丸) 五割引  
 長崎縣松尾榮ノ汽船(升金丸) 五割引  
 長崎縣三山近六ノ汽船(錦江丸、末廣丸、田崎丸、新川丸、幸盛丸、兩國人丸、改新丸、歷前人丸、那陽丸、金昇丸、泉賀丸、第二半人丸) 五割引  
 長崎縣三山福市ノ汽船(時津丸) 五割引  
 大阪府尼崎伊三郎ノ汽船 五割引  
 大阪府柏谷義一ノ汽船 五割引  
 大阪府中村丑太郎ノ汽船 五割引  
 大阪府福永庄七ノ汽船 五割引  
 大阪府北村九輔ノ汽船 五割引  
 滋賀縣原田十二郎ノ汽船 五割引

熊本縣高田義丸ノ汽船 五割引  
 山口縣島谷德三郎ノ汽船 五割引  
 香川縣龜井長太郎ノ汽船 五割引  
 長崎縣藤野林太郎ノ汽船 五割引  
 大家商船合資會社ノ汽船 五割引  
 島根縣岡田太郎治ノ汽船 五割引  
 高知縣小松京馬ノ汽船 五割引  
 高知縣西榮助ノ汽船 五割引  
 廣島縣有田精之ノ汽船 五割引  
 愛媛縣松本權六ノ汽船 五割引  
 大川運輸株式會社ノ汽船 五割引  
 大阪府岸本佳季ノ汽船 五割引  
 土佐商船株式會社ノ汽船 二割引  
 大阪府粟谷品三ノ汽船 五割引  
 富山縣南島間作ノ汽船(志賀丸) 五割引  
 隱岐汽船株式會社ノ汽船 五割引  
 秋田汽船株式會社ノ汽船 五割引  
 鳥取縣西山新十ノ汽船 五割引  
 陸奥灣汽船合資會社ノ汽船 五割引

青森縣鎌田重吉ノ汽船 五割引  
 內國通運株式會社ノ汽船 五割引  
 銚子汽船株式會社ノ汽船 五割引  
 北海道石垣隈太郎ノ汽船(矯龍丸) 五割引  
 北海道板村助右衛門ノ汽船(渡島丸) 五割引  
 北海道服部半左衛門ノ汽船(東光丸、平穩丸、魁益丸、舟鏡丸) 五割引  
 函館汽船株式會社ノ汽船(北雄丸、北門丸、竹ノ浦丸) 五割引  
 北海道山縣勇三郎ノ汽船(安武丸) 五割引  
 北海道吉田庄作ノ汽船(北海丸、第二松前丸) 五割引  
 北海道渡邊熊四郎ノ汽船(日ノ丸、福山丸) 五割引  
 北海道能登善吉ノ汽船(福島丸、函館丸) 五割引  
 北海道田村與七ノ汽船(惠比須丸) 五割引  
 北海道酒澤岸太郎ノ汽船(千早丸、實效丸) 五割引  
 北海道工藤嘉七ノ汽船(茅丸、風至丸) 五割引  
 北海道平出喜三郎ノ汽船(浦島丸、錦旗丸) 五割引  
 北海道業合資會社ノ汽船(築紫丸) 五割引

北海道移住民ニ對スル汽車汽船ノ特別取扱方

北海道永野彌平ノ汽船(瀨田川丸)	五割引	北海道藤山要吉ノ汽船	五割引
滋賀縣藤野四郎兵衛ノ汽船(蛟龍丸)	五割引	北海道橋本清吉ノ汽船(北球丸)	五割引
噴火灣汽船株式會社ノ汽船(振分丸)	五割引	北海道岩田榮藏ノ汽船(室蘭丸)	五割引
岩内汽船株式會社ノ汽船(第五丸)	五割引	北海道山本順治ノ汽船(巴港丸)	五割引
北海道澤口庄作ノ汽船(勢至丸)	五割引	北海道吉田三郎右衛門ノ汽船(松前丸)	五割引
北海道西出孫左衛門ノ汽船(福重丸)	五割引	北海道從二字左衛門ノ汽船(金川丸)	五割引
北海道渡邊政次郎ノ汽船(平安丸)	五割引	北海道金澤長太郎ノ汽船(新古宇丸)	五割引
北海道酒谷長一郎ノ汽船(豐漁丸)	五割引	幌泉汽船株式會社ノ汽船(帝淨丸)	五割引
北海道入江函館出張店取扱ノ汽船	五割引	一本間合名會社ノ汽船(增毛丸、天鹽丸、川丸、久保丸)	五割引
北海道阿部新七取扱ノ汽船	五割引	積丹汽船株式會社ノ汽船(大勢丸)	五割引
北海道飯岡新吉取扱ノ汽船	五割引	室蘭運輸合名會社ノ汽船(いろは丸)	五割引
北海道祐村佐助取扱ノ汽船	五割引	兩島汽船株式會社ノ汽船(後志丸)	五割引
北海道宮本武之助取扱ノ汽船	五割引	北海道小林吉三郎ノ汽船(金澤丸)	五割引
北海道樋口多喜藏取扱ノ汽船	五割引	北海道山本久右衛門ノ汽船(敦賀丸)	五割引
北海道齋藤清七取扱ノ汽船	五割引	北海道板村右衛門ノ汽船(第一丸)	五割引
北海道高松庫太郎取扱ノ汽船	五割引	北海道祐村佐助ノ汽船(第二新湊丸)	五割引
北海道安田商事合名會社運搬部ノ汽船(酒田川丸)	五割引	北海道前田榮次郎ノ汽船	五割引
北海道麻里英三ノ汽船	五割引		

七四二

越佐汽船株式會社ノ汽船(度津丸) 二分五割引  
 新潟運送株式會社ノ汽船(太平丸) 二分五割引  
 新潟縣藤田簡吉ノ汽船(北越丸) 二分五割引  
 第三條(四一年告) 遞信省所管ノ鐵道ニ於ケル無賃及割引ハ左ノ區別ニ從ヒ乘車地ヨリ降車地ニ到ル線路ニ限ル

第一 五割引區間

乘 車 地	降 車 地
東海道、山陽、九州、中央西、北陸、京都、阪鶴、七尾、關西、參宮線各驛	大阪、神戸、橫濱、平沼、青森驛及函館小樽間各驛
武豐、中央西、關西、參宮線及名古屋神戶間各驛	湊町、四日市驛
九州線各驛	門司驛
北陸、七尾線各驛	敦賀、金津、高岡、伏木驛
信越、中央東、北越線各驛	直江津、新潟、橫濱、青森驛及函館小樽間各驛
奥羽線各驛	青森、能代、土崎驛及函館小樽間各驛
日本、岩越線各驛	青森、橫濱驛及函館小樽間各驛
山陰線各驛	境驛

日本西廻汽船商會ノ汽船 函館行 五割引  
 三月中伏木港ヨリ五十名以上乗船ノ場合ニ限ル

北海道移住民ニ對スル汽船ノ特別取扱方

德島線各驛	德島驛
鹿兒島線各驛	鹿兒島驛
總武、房總線各驛	兩國橋、青森驛
函館、黒松内、小澤、中央小樽驛	龜田小樽間各驛

第二 無賃區間

乘 車 地	降 車 地
室蘭、小樽、釧路驛	小樽釧路間、輪西志文間、永山名寄間、川端夕張間各驛及幌内太、幌内、幾春別、神威、歌志内驛

第四條 前條以外ノ鐵道ニシテ行先地ヲ指定スルモノ左ノ如シ

成田鐵道株式會社ノ鐵道 日本鐵道株式會社線青森驛ニ到ルモノ  
 河南鐵道株式會社ノ鐵道 柏原驛ニ到ルモノ  
 近江鐵道株式會社ノ鐵道 彦根驛又ハ貴生川驛ニ到ルモノ  
 第五條 左記ノ鐵道ニシテ從來連帶運輸ヲ爲セル相互ノ各驛ニ於テハ割引ノ率同様ナルモノニ限リ一般旅客ト同シク連帶切符ヲ發賣ス

遞信省所管ノ鐵道

佐野鐵道株式會社ノ鐵道

中越鐵道株式會社ノ鐵道

河南鐵道株式會社ノ鐵道

中國鐵道株式會社ノ鐵道

前項ノ鐵道ト接續スル左記ノ汽船ニ於テモ亦連帶切符ヲ發賣ス

日本郵船株式會社ノ汽船(青森函館間及青森室蘭間ノ航路)

第六條(四〇年告) 携帶品ノ無賃又ハ割引ハ左ノ如シ

遞信省所管ノ鐵道汽船無賃定限ヲ超過スル分五分割引(四一年告)

但北海道所在ノ鐵道中無賃區間ニ限リ無賃其ノ他ノ鐵道及汽船ニ於テハ無賃定限ニ超過スル分ハ

第二條ニ掲クル割引歩合ニ依ル

第七條 割引券ハ避クヘカラサル事故ニ依リ滅失シタルモノノ外再ヒ之ヲ下附セス

第八條 割引券ノ様式ハ別紙ノ如シ

第九條 従前ノ様式ニ依ル割引券ハ當分ノ内仍ホ之ヲ使用スルコトヲ得

第十條(四〇年告) 當該官吏ニ於テ北海道移住民ニアラスシテ北海道移住民汽車汽船賃割引券ヲ携帶スル者ヲ途中ニテ發見シタルトキハ其ノ割引券ヲ沒收スルコトヲ得

割引券様式(略)

高野鐵道株式會社ノ鐵道

尾西鐵道株式會社ノ鐵道

豆相鐵道株式會社ノ鐵道

近江鐵道株式會社ノ鐵道

○北海道移住民ノ汽車汽船賃割引券取扱方 明治三十六年十二月二十日 内務省訓令第十二號

(改正三十九年訓)

北海道廳 府 縣

本年内務省告示第九十號ニ依ル北海道移住民ノ汽車賃汽船賃割引券取扱方左ノ通定ム

- 第一條 割引券ノ下附ヲ請フ者アルトキハ左ノ事項ヲ調査シテ之ヲ下附スヘシ
  - 一 一時ノ出稼ニアラサル者
  - 二 生業ノ目的ヲ以テ移住スル者
  - 三 移住ニ要スル旅費ヲ辨シ得ル者
- 第二條 告示第三條但書ニ依リ特ニ乗降地ヲ指定シタル官公署ハ乗車五日以前ニ其ノ乗降スヘキ驛名並ニ乗車人員ヲ鐵道作業局運輸部ニ通知スヘシ但割引券下附後ニ在リテハ之ヲ訂正スヘシ
- 第三條 割引券ハ移住季節前所要數ヲ豫定シテ之ヲ内務省ニ請求シ送付ヲ受ケタル割引券ハ自ラ下附スルモノヲ除キ直ニ所屬官公署ニ分配スヘシ但臨時入用ノ場合ハ當該官公署警察分署町村役場ヲ除クヨリ直接之ヲ内務省ニ請求スルコトヲ得(三十九年訓)
- 第四條 割引券ノ受拂ヲ爲シタル官公署ニ於テハ割引券受拂簿並ニ下附簿ヲ設ケテ左ノ事項ヲ記入スヘシ
  - 受拂簿ニ記入スヘキ事項
    - 受入ノ年月日、員數並ニ送越ノ官公署、拂出ノ年月日、分配及下附ノ員數、棄却ノ事由及員數並ニ每月末現在高

下附簿ニ記入スヘキ事項  
 券面ノ番號、下附ノ年月日、受領人ノ住所、身分、職業、移住ノ目的、氏名、年齡並券面ニ記載シタル家族ノ名、年齢(同上)

○北海道移住民渡航船舶取締規則 明治三十一年八月十六日 内務省令第八號

北海道移住民渡航船舶取締規則 左ノ通相定ム

- 第一條 北海道移住民一百名以上ヲ搭載セントスル船舶ハ其都度左ノ事項ヲ掲記シ船長又ハ船舶所有者ヨリ所轄警察署ヘ届出ツヘシ其寄港及著港シタル場合亦同シ但一時間以内ノ寄港ニシテ移住民ヲ搭載セサル場合ハ此限ニアラス
  - 一 船名 船籍地 登簿噸數 旅客定員 船舶所有者及船長ノ氏名
  - 二 發航ノ日時寄港地著港地及其日時
  - 三 搭載スル移住民ノ員數船賃及貨物運搬賃
  - 四 食料ノ種類及其供給ノ方法
  - 五 移住民又ハ回漕問屋旅人宿其他移住民ノ渡航ヲ周旋スル者ト特別ノ契約アルトキハ其契約
- 第二條 前條ノ届出ヲ受ケタル警察署ハ直ニ其船舶ヲ臨檢スヘシ
- 第三條 前條ノ臨檢ヲ爲シタル警察署ハ第一條各號ノ事項及發航日時ヲ直ニ其寄港地及著港地ノ各警察署ヘ通報スヘシ

第四條 第一條ノ船舶ハ第二條ノ臨檢ヲ受ケタル後ニアラサレハ發航スルコトヲ得ス

第五條 回漕問屋旅人宿其他移住民ノ渡航ヲ周旋スル者ハ移住民渡航ノ都度左ノ事項ヲ掲記シ所轄警察署ヘ届出ツヘシ但移住民十名以下ナルトキハ此限ニアラス

一 船名及發航日時

二 移住民ノ員數船賃及渡航周旋料又ハ手數料

三 移住民又ハ船舶所有者若ハ船長トノ契約

四 移住民ヲ投宿セシメタルトキハ其月日

第六條 前條ノ渡航周旋料又ハ手數料ヲ不當ナリト認ムルトキハ所轄警察署ハ之ヲ低減セシムルコトヲ得

第七條 回漕問屋旅人宿其他移住民ノ渡航ヲ周旋スル者正當ノ理由ナクシテ第五條ノ發航日時ニ移住民ヲ出發セシメサルトキハ其出發延期ノ爲ニ生スル移住民ノ費用ヲ負擔スヘシ

第八條 回漕問屋旅人宿其他移住民ノ渡航ヲ周旋スル者第五條ノ船賃宿泊料渡航周旋料又ハ手數料ノ外何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス移住民ヨリ金錢又ハ物品ヲ受クルコトヲ得ス

第九條 左ニ掲クル事項ノ一ニ該當スル者ハ二十五日以下ノ重禁錮又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第一條ノ届出ヲ爲サスシテ航行シ又ハ同條若ハ第五條ノ場合ニ於テ虚欺ノ届ヲ爲シタル者

二 第四條ノ臨檢以前ニ發行シタル者

三 第五條ノ届出ヲ爲サスシテ周旋ヲ爲シタル者

四 第八條ニ違背シ金錢又ハ物品ヲ受ケタル者

五 船舶内ニ於テ天災其他避クヘカラサル事故ニ由ルニアラスシテ飲食物ノ供給ヲ怠リタル者

第十條 前條ハ商事會社ニ在リテハ其所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員取締役又ハ使用人ニ之ヲ適用ス

○北海道移住民三百名以上乗船ノトキ警察官吏附添方

明治三十一年十月八日  
内務省訓令第二十八號

府 縣

北海道移住民三百名以上一時ニ乗船シテ渡航スルトキ及渡航セントスル移住民三百名ニ滿タスト雖モ既ニ搭載シタル移住民ヲ合セ其員數ニ達シタルトキハ乗船地ノ府縣廳ハ警察官吏一名以上ヲ著港地マテ附添派遣セシムヘシ

樺太ニ關スル法令

○樺太ニ施行スヘキ法令ニ關スル法

明治四十年三月二十八日  
法律第二十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル樺太ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

法律ノ全部又ハ一部ヲ樺太ニ施行スルヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ左ノ事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

- 一 土人ニ關スルコト
- 二 行政官廳又ハ公署ノ職權ニ關スルコト
- 三 法律上ノ期間ニ關スルコト
- 四 裁判所又ハ裁判長カ職權ヲ以テ選任シ又ハ選定スル辯護人、訴訟代理人又ハ訴訟承繼人ニ關スルコト

附則

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○郵便法、郵便爲替法、郵便貯金法、鐵道船舶郵便法及電信法ヲ權太ニ施行

明治四十年三月二十八日  
勅令六十四號

朕郵便法、郵便爲替法、郵便貯金法、鐵道船舶郵便法及電信法ヲ權太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便法、郵便爲替法、郵便貯金法、鐵道船舶郵便法及電信法ヲ權太ニ施行ス

附則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○司法ニ關スル法律ヲ權太ニ施行 明治四十年三月三十一日(改正一九〇二年勅令第九十四號)

朕司法ニ關スル法律ヲ權太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 左ニ掲ケル法律ハ之ヲ權太ニ施行ス

- 一 法例
- 二 裁判所構成法
- 三 裁判所構成法施行條例
- 四 執達吏規則
- 五 執達吏手数料規則
- 六 辯護士法
- 七 【公證人規則】
- 八 民法
- 九 民法施行法

- 十 明治三十五年法律第五十號
- 十一 地所賃入書入規則
- 十二 明治三十七年法律第十七號
- 十三 不動産登記法
- 十四 明治三十九年法律第五十五號
- 十五 利息制限法
- 十六 明治三十二年法律第四十號
- 十七 明治三十三年法律第十三號
- 十八 供託法
- 十九 明治三十二年法律第五十號
- 二十 商法
- 二十一 商法施行法
- 二十二 明治二十三年法律第三十二號商法
- 二十三 商法施行條例
- 二十四 明治三十三年法律第十七號
- 二十五 刑法
- 二十六 刑法附則但シ第二十七條第一號及第四十四條第一號ヲ除ク
- 二十七 爆發物取締罰則
- 二十八 瀆職法
- 二十九 鑄造金銀銅貨紙幣等取扱規則
- 三十 明治十五年第二十五號布告
- 三十一 明治十五年第七十三號布告

郵便法、郵便爲替法、郵便貯金法、鐵道船舶郵便法及電信法ヲ權太ニ施行  
司法ニ關スル法律ヲ權太ニ施行



- 三十二 明治二十二年法律第二十八號
- 三十三 明治二十二年法律第三十四號
- 三十四 明治二十三年法律第百號
- 三十五 明治二十三年法律第百一號
- 三十六 明治三十八年法律第五十一號
- 三十七 明治三十八年法律第六十六號
- 三十八 明治三十八年法律第七十號
- 三十九 民事訴訟法
- 四十 民事訴訟法施行條例
- 四十一 民事訴訟費用法
- 四十二 民事訴訟用印紙法
- 四十三 明治十年第十九號布告
- 四十四 家資分散法
- 四十五 人事訴訟手續法
- 四十六 商事非訟事件印紙法
- 四十七 非訟事件手續法
- 四十八 明治三十二年法律第五十三號
- 四十九 競賣法
- 五十 明治三十二年法律第六十七號
- 五十一 刑事訴訟法
- 五十二 逮捕即決例
- 五十三 逃亡犯罪人引渡條例

- 五十四 外國船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法
- 五十五 明治十四年太政官達第八十二號
- 五十六 明治十四年第五十九號布告
- 五十七 明治十四年司法省達甲第五號
- 五十八 明治十四年司法省達甲第七號
- 五十九 明治十八年第十二號布告
- 六十 【監獄則】
- 六十一 裁判所及監獄總督府法院共助法
- 六十二 外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法
- 六十三 明治三十九年法律第五十六號第九條第一項
- 第二條 樺太ニ於ケル土人ノ外ニ關係者ナキ民事ニ關スル事項及土人ノミニ對スル刑事ニ關スル事項ハ從來ノ慣例ニ依ル  
前項ニ關スル訴訟手續ハ裁判所ノ便宜ニ從フ
- 第三條 (四二年勅  
一九〇號)
- 第四條 樺太廳支廳長、支廳出張所長タル官吏並林務、稅務、鑛業及水産ニ關スル事務ヲ管掌スル官吏ハ刑事訴訟法第四十七條第二項  
ノ司法警察官ノ職權ヲ有ス
- 第五條 樺太廳支廳長、其ノ代理タル官吏、支廳出張所長タル官吏及樺太廳支廳又ハ支廳出張所ニ勤務スル警部ハ其ノ管轄區域内ニ於  
テ犯シタル逸刑罪ヲ即決ス
- 第六條 民法又ハ商法ニ規定スル登記ヲ爲スヘキ期間ハ之ヲ二倍トス
- 第七條 民事訴訟法第六十七條第一項及刑事訴訟法第十六條第一項ノ場合ニ於テハ海陸路四里毎ニ一日ヲ伸長ス
- 第八條 裁判所又ハ裁判長カ職權ヲ以テ辯護士ヲ訴訟承繼人、訴訟代理人又ハ辯護人ニ選定シ若ハ選任スヘキ場合ニ於テハ辯護士ニ  
非サル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○公證人法ヲ樺太ニ施行 明治四十二年七月十九日  
勅令第九十號  
朕公證人法ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

公證人法ハ之ヲ樺太ニ施行ス  
明治四十年勅令第九十四號中第三條削除

附則  
本令ハ明治四十二年八月十六日ヨリ之ヲ施行ス

○刑法、刑法施行法及監獄法ヲ樺太ニ施行 明治四十一年八月六日  
勅令第九十二號  
朕刑法、刑法施行法及監獄法ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

刑法、刑法施行法及監獄法ハ之ヲ樺太ニ施行ス

附則  
本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○會計法、行政執行法、治安警察法、出版法及質屋取締法ヲ樺太ニ施行 明治四十年三月三十一日  
勅令第九十五號  
朕會計法、行政執行法、治安警察法、新聞紙條例、出版法及質屋取締法ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
會計法、行政執行法、治安警察法、新聞紙條例、出版法及質屋取締法ハ之ヲ樺太ニ施行ス

附則  
本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○新聞紙法ヲ樺太ニ施行 明治四十二年五月五日  
勅令第九十二號  
朕新聞紙法ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
新聞紙法ハ之ヲ樺太ニ施行ス

○貔虎腦胸獸獵法ヲ樺太ニ施行 明治四十年四月二十五日  
勅令第五十六號  
朕貔虎腦胸獸獵法ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貔虎腦胸獸獵法ハ之ヲ樺太ニ施行ス但シ同法主務大臣ノ職權ハ樺太ニ於ケル獵獲ニ關シテハ内務大臣之ヲ行フ

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○樺太海豹島ニ於ケル貔虎及腦胸獸獵獲禁止 明治四十年四月二十五日  
勅令第五十七號  
朕樺太海豹島ニ於ケル貔虎及腦胸獸獵獲禁止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

樺太海豹島ニ於テハ貔虎及腦胸獸ノ獵獲ヲ禁止ス

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

公證人法ヲ樺太ニ施行 刑法、刑法施行法及監獄法ヲ樺太ニ施行 會計法、行政執行法、治安警察法、出版法及質屋取締法ヲ樺太ニ施行 新聞紙法ヲ樺太ニ施行 貔虎腦胸獸獵獲禁止  
樺太海豹島ニ於ケル貔虎及腦胸獸獵獲禁止

○陸軍刑法、海軍刑法等ヲ樺太ニ施行 明治四十年七月九日 勅令第二百五十七號  
朕陸軍刑法、海軍刑法等ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 左ニ掲クル法律ハ之ヲ樺太ニ施行ス

- 一 陸軍刑法
  - 二 海軍刑法
  - 三 陸軍治罪法
  - 四 海軍治罪法
  - 五 陸海軍軍法會議私訴裁判強制執行法
  - 六 陸軍軍人軍用違警罪處分例
  - 七 海軍軍人軍用違警罪處分例
  - 八 戒嚴令
  - 九 軍機保護法
  - 十 軍用電信法
  - 十一 海上衝突豫防法
  - 十二 徵發令
  - 十三 陸地測量標條例
- 第二條 徵發令及陸地測量標條例中府縣知事ノ職務ハ樺太廳長官、郡長ノ職務ハ樺太廳支廳長、町村長ノ職務ハ樺太廳長官ノ指定シタル者之ヲ行フ

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年九月二十二日  
勅令第二百二十一號

朕陸軍刑法、陸軍刑法施行法、海軍刑法及海軍刑法施行法ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
陸軍刑法、陸軍刑法施行法、海軍刑法及海軍刑法施行法ハ之ヲ樺太ニ施行ス

附則  
本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○行旅病人及行旅死亡人取扱法ヲ樺太ニ施行 明治四十年九月三十日 勅令第三百十八號

朕行旅病人及行旅死亡人取扱法ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
行旅病人及行旅死亡人取扱法ハ之ヲ樺太ニ施行ス但シ同法中市町村長ノ職務ハ樺太廳支廳長之ヲ行フ

附則  
○訴願法ノ一部ヲ樺太ニ施行 明治四十一年十月八日 勅令第二百五十三號

朕訴願法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
訴願法ハ第一條第一號乃至第六號ヲ除キ之ヲ樺太ニ施行ス

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
陸軍刑法海軍刑法等ヲ樺太ニ施行 行旅病人及行旅死亡人取扱法ヲ樺太ニ施行 訴願法ノ一部ヲ樺太ニ施行

○行政裁判法ヲ樺太ニ施行 明治四十一年十月八日 勅令第二百五十四號

朕行政裁判法ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

行政裁判法ハ之ヲ樺太ニ施行ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○關稅法、關稅定率法及噸稅法ヲ樺太ニ施行 明治四十二年三月十八日 勅令第二十三號

朕關稅法、關稅定率法及噸稅法ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

關稅法、關稅定率法及噸稅法ハ之ヲ樺太ニ施行ス

附則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○印紙犯罪處罰法ヲ樺太ニ施行 明治四十二年四月二十七日 勅令第百十六號

朕印紙犯罪處罰法ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

印紙犯罪處罰法ハ之ヲ樺太ニ施行ス

附則

本令ハ印紙犯罪處罰法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○煙草專賣法ヲ樺太ニ施行 明治四十二年四月三十日 勅令第百二十一號

朕煙草專賣法ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

煙草專賣法ハ之ヲ樺太ニ施行ス

附則

本令ハ明治四十二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

○砂糖消費稅法及非常特別稅法中織物消費稅ニ關スル規定ヲ樺太ニ施行

明治四十二年五月二十六日 勅令第百五十二號

朕砂糖消費稅法及非常特別稅法中織物消費稅ニ關スル規定ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

砂糖消費稅法及非常特別稅法中織物消費稅ニ關スル規定ハ之ヲ樺太ニ施行ス

前項ノ法律施行ニ關スル事務ハ樺太廳支廳之ヲ行フ但シ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラレル砂糖及織物ニ關シテハ稅關ニ委託シテ之ヲ行ハシム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

行政裁判法ヲ樺太ニ施行 關稅法、關稅定率法及噸稅法ヲ樺太ニ施行 印紙犯罪處罰法ヲ樺太ニ施行 煙草專賣法ヲ樺太ニ施行 砂糖消費稅法及非常特別稅法中織物消費稅ニ關スル規定ヲ樺太ニ施行

○樺太ニ於ケル租税ニ關スル法 明治四十年三月二十六日 法律第二十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル樺太ニ於ケル租税ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 樺太ニ於ケル租税ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス

- 一 戸數割
- 二 營業税
- 三 雜種税

前項租税ノ種類及課率ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 租税ノ徵收及滯納處分ニ關シテハ國稅徵收法ヲ準用ス

第三條 本法ニ規定スルモノノ外租税ノ賦課徵收其ノ他必要ナル事項ニ關スル規程ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附則

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○樺太ニ於ケル租税ノ種類及課率 明治四十年六月四日 內務省令第十二號

明治四十年法律第二十一號第一條第二項ニ依リ樺太ニ於ケル租税ノ種類及課率ヲ定ムルコト左ノ如シ  
第一條 戸數割ハ左ノ等級ニ依リ之ヲ賦課ス

等級	年額	一戸	金額
一等	同	同	金十二圓
二等	同	同	金十圓
三等	同	同	金八圓
四等	同	同	金七圓
五等	同	同	金六圓
六等	同	同	金五圓
七等	同	同	金四圓
八等	同	同	金三圓
九等	同	同	金二圓
十等	同	同	金一圓
第二條 營業税ノ種類及課率ハ左ノ如シ			
物品販賣業、金錢貸付業、物品貸付業			
一等	年税		金十五圓
二等	同		金十二圓
三等	同		金十圓
四等	同		金八圓
五等	同		金六圓
六等	同		金五圓
七等	同		金四圓

樺太ニ於ケル租税ニ關スル法 樺太ニ於ケル租税ノ種類及課率

八等	同	金三圓
九等	同	金二圓
十等	同	金一圓
銀行業、兩替業、保險業、倉庫業、運送業、請負業	年稅	金三十圓
一等	同	金二十圓
二等	同	金十二圓
三等	同	金八圓
四等	同	金五圓
五等	同	金五圓
印刷業、寫真業、製造業	年稅	金十三圓
一等	同	金十圓
二等	同	金七圓
三等	同	金五圓
四等	同	金三圓
五等	同	金六圓
周旋業、代理業、仲立業、問屋業	年稅	金十三圓
旅人宿業、席貸業	年稅	金十二圓
一等	同	
二等	同	

三等	同	金七圓
四等	同	金五圓
五等	同	金三圓
料理店業	年稅	金三十圓
一等	同	金二十五圓
二等	同	金二十圓
三等	同	金十五圓
四等	同	金十二圓
五等	同	金十二圓
酒類釀造業	年稅	金千圓
一等	同	金八百圓
二等	同	金六百圓
三等	同	金五百圓
四等	同	金四百圓
五等	同	金三百圓
六等	同	金二百圓
七等	同	金二百圓
八等	同	金百圓
醬油釀造業	同	

樽太ニ於ケル租稅ノ種類及課率

一等	年稅	金三十圓
二等	同	金二十五圓
三等	同	金二十圓
四等	同	金十五圓
第三條 雜種稅ノ種類及課率ハ左ノ如シ		
貸座敷	年稅	金十二圓
飲食店	年稅	金十圓
一等	年稅	金七圓
二等	同	金五圓
三等	同	金三圓
四等	同	金三圓
湯屋、理髮業、代書人	年稅	金三圓
遊藝師匠、遊藝稼人、俳優、相撲、行司、幫間	年稅	金二圓
興行	日稅	金一圓
劇場	年稅	金十圓
人寄席	同	金五圓
遊技場	同	金三圓
藝妓	月稅十四歲以上 十四歲未満	金二圓 金一圓

娼妓	同	金一圓
酌婦	同	金五十錢
乘馬	年稅	金二圓
乘用馬車、乘用馬橋	同	金三圓
荷積馬車、荷積馬橋	同	金二圓
荷積車、荷積橋	同	金一圓
人力車、自轉車	同	金二圓
西洋形船舶 <small>（汽船、漁業專用ノ 風帆船、モノヲ除ク）</small>	同	金十圓
日本形船舶 <small>（漁業專用ノ モノヲ除ク）</small>	同	金一圓
狩獵	同	金五圓
鑛業	同	金一圓
砂礫採取	同	金一圓
市場	同	金一圓
一等	同	金三十圓
二等	同	金二十五圓
三等	同	金二十圓
四等	同	金十五圓
五等	同	金十圓
六等	同	金五圓

樺太ニ於ケル租稅ノ種類及課率

第四條 各納税人ニ對スル課税ノ等級ハ樺太廳長官之ヲ定ム  
附則

本令ハ明治四十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ年税ニ屬スルモノハ明治四十年度分ヨリ之ヲ徵收ス

○樺太國有土地管理規則 明治四十年三月二十八日  
勅令第八十三號

朕樺太國有土地管理規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

樺太國有土地管理規則

- 第一條 樺太國有土地ハ樺太廳長官之ヲ管理ス
- 第二條 樺太國有土地ノ貸付及賣拂ハ別段ノ規定アル場合ノ外競争ニ付セス
- 第三條 開墾、牧畜又ハ植樹等ニ供スル土地ハ無償ニテ貸付スルコトヲ得
  - 前項ニ依リ貸付シタル土地ハ左ノ條件ニ該當シタル場合ニ於テ之ヲ付與スヘシ
    - 一 開墾ヲ目的トスル貸付地ニ在リテハ其ノ事業ノ二分ノ一以上ヲ成功シ且牛、馬二頭以上ヲ所有スルコト
    - 二 牧畜及植樹等ヲ目的トスル貸付地ニ在リテハ其ノ事業全部成功スルコト
    - 三 前各號ノ外貸付許可ノ後一箇年以内ニ其ノ土地又ハ其ノ附近ニ住居シ且一箇月以上引續キ又ハ一箇年中六箇月以上行政廳ノ許可ナクシテ其ノ住居地ヲ離レサルコト
- 第四條 前條貸付地ノ面積ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一 開墾ヲ目的トスル土地 九萬坪

二 牧畜又ハ植樹ヲ目的トスル土地 五十萬坪

三 其ノ他ノ目的ノ土地 五萬坪

第五條 公用、公共ノ利益ト爲ルヘキ事業又ハ社寺若ハ教會ノ用ニ供スル土地ハ之ヲ賣拂ヒ付與シ又ハ有償若ハ無償ニテ貸付スルコトヲ得

前項ノ外事業ノ目的ニ依リ必要ト認ムル土地ハ之ヲ賣拂フコトヲ得

第六條 市街地其ノ他土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムル土地ハ有償ニ之ヲ貸付シ又ハ競争ニ付シ之ヲ賣拂フコトヲ得

前項ニ依リ有償貸付ヲ爲シタル土地ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ借地人ニ賣拂フコトヲ得

第七條 素地ノ儘使用セムトスル土地ハ有償又ハ無償ニテ之ヲ貸付スルコトヲ得

第八條 樺太國有土地ト民有地ノ交換ハ兩地ノ價格相均シキ場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第九條 本令ニ依リ貸付、賣拂、付與及交換スヘキ土地ノ區域ハ樺太廳長官之ヲ告示ス

第十條 土地ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一 無償貸付 十箇年

二 有償貸付 十五箇年

泥炭地ノ開墾ニ限リ特ニ二十箇年以内ノ期間ヲ以テ貸付ヲ爲スコトヲ得

天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ貸付期間内ニ成功スルコト能ハサルトキハ前二項ノ例ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第十一條 第三條ニ依リ貸付シタル土地ハ隨時之ヲ検査シ豫定ノ事業方法ニ違反スルトキハ其ノ全部



ヲ返還セシムヘシ

第十二條 第三條ニ依リ貸付シタル土地ハ貸付期間滿了後一箇年以内ニ出願シタルトキニ限り之ヲ付與スルコトヲ得

第十三條 事業ノ不成功ニ因リ返還セシメタル土地、侵墾地及前條ニ依リ付與ヲ出願セサル土地ニシテ全部成功セサルモノハ第三條ニ依リ處分スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ使用特許又ハ貸付許可ヲ爲シタル土地ニ關シテハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ從ヒ更ニ本令ニ依ル處分アル迄從前ノ例ニ依ル

○鑛業法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件 明治四十年六月十八日 勅令第二百二十三號

朕鑛業法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鑛業法第一條乃至第十一條、第十五條乃至第十七條、第十九條、第二十條、第二十八條乃至第四十七條、第四十九條、第七十一條乃至第八十條、第九十四條乃至第一百條、第一百二條乃至第一百六條ハ試掘ニ關スル規定ヲ除キ之ヲ樺太ニ施行ス但シ同法中農商務大臣及鑛山監督署長ノ職務ハ當分ノ内樺太廳長官之ヲ行フ

附則

本令ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年八月二十六日 勅令第二百十四號

朕鑛業法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鑛業法第三章及第七章ハ試掘ニ關スル場合ヲ除キ之ヲ樺太ニ施行ス但シ同法中農商務大臣及鑛山監督署長ノ職務ハ當分ノ内樺太廳長官之ヲ行フ

附則

本令ハ公布ノヨリ之ヲ施行ス

○樺太鑛業令 明治四十年六月十八日 勅令第二百二十四號

朕樺太鑛業令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

樺太鑛業令

第一條 鑛業ハ内務大臣ノ指定シタル地域内ニ限り出願ニ依リ之ヲ許可ス

第二條 鑛業ヲ爲サムトスル者ハ樺太廳長官ニ出願スヘシ

第三條 鑛業ニ關シ出願又ハ申請ヲ爲ス者ハ手数料ヲ納ムヘシ其ノ金額ハ樺太廳長官之ヲ定ム

鑛業法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件 樺太鑛業令

第四條 鑛業出願人ハ名義ノ變更ヲ出願スルコトヲ得

第五條 出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ樺太廳長官ハ其ノ訂正ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ訂正ノ出願ヲ爲ササルトキハ出願ヲ許可セス  
第六條 出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ出願人ハ其ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得

第七條 出願人ハ出願地ノ増減ヲ出願スルコトヲ得

第八條 出願地他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス但シ第十三條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 出願地他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ異種ノ鑛物ナルトキハ樺太廳長官ハ之ヲ鑛業權者ヘ通知スヘシ

鑛業權者ハ前項通知書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ自ラ其ノ鑛業ヲ出願スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ豫メ鑛業權者ノ承諾ヲ得タル場合ニハ之ヲ適用セス

第一項ノ出願他人ノ鑛業ニ妨害アリト認メタルトキハ之ヲ許可セス

第十條 公益ヲ害スルモノト認メタルトキ又ハ鑛業ノ價值ナシト認メタルトキハ鑛業ノ出願ヲ許可セス

第十一條 鑛業出願地重複スルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ願書發送日ノ先ナル者優先權ヲ有ス願書ノ發送日同一ナルトキハ樺太廳長官ハ之ヲ各出願人ニ通知スヘシ出願人ハ其ノ通知書發送日ヨリ六十日以内ニ協議ヲ遂ケ其ノ結果ヲ届出ツヘシ協議調ハサルトキハ抽籤ニ依リ優先權者ヲ定ム

前項ノ規定ハ第五條、第六條、第九條第二項及第十三條ノ場合ニハ之ヲ適用セス

第十二條 鑛業權者ハ鑛區ノ合併又ハ分割ヲ樺太廳長官ニ出願スルコトヲ得鑛區ノ一部ヲ分割シテ之ヲ他ノ鑛區ニ合併セムトスルトキ亦同シ

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ前項ノ出願ヲ爲サムトスルトキハ抵當權者ノ承諾及抵當權ノ順位ニ關スル協定ヲ經ヘシ

第十三條 鑛床ノ位置形狀ニ依リ隣接スル他人ノ鑛區ニ掘進スルノ必要アルトキハ隣接鑛業權者ノ承諾ヲ經テ鑛區ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得

第十四條 第五條第一項、第六條、第七條及第十一條第二項ノ規定ハ之ヲ鑛區ニ準用ス

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ鑛區ノ減少ヲ出願セムトスルトキハ豫メ抵當權者ノ承諾ヲ經ヘシ

第十五條 鑛業ニ關スル願書又ハ申請書法令ニ違反シタル場合ニ於テハ之ヲ却下スヘシ  
鑛業ニ關スル書面又ハ圖面ニ不備アリト認メタルトキハ樺太廳長官ハ期日ヲ指定シテ修正又ハ補充ヲ命スルコトヲ得

第十六條 鑛業權者許可ノ條件ニ違反シタルトキハ樺太廳長官ハ鑛業ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十七條 樺太廳長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得第一條ノ地域外ニ於テ鑛種及鑛區ヲ指定シ許可ノ際納付スヘキ金額ヲ競争入札ニ付シ落札者ニ鑛業ヲ許可スルコトヲ得

競争入札ニ於テハ樺太廳長官ノ豫定スル金額以上ノ最高額ノ入札ヲ爲ス者ヲ落札者トス但シ同額ノ入札者二人以上アルトキハ抽籤ニ依リ落札者ヲ定ム

第十八條 鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正、増減及改正ノ出願ニ付テハ鑛業出願ノ例ニ依ル

第十九條 本令ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○樺太ニ於テ鑛業ヲ許可スヘキ區域 明治四十二年一月二十日

内務省令第二號

樺太ニ於テ鑛業ヲ許可スヘキ區域ハ當分ノ内樺太ノ全部ヨリ左ノ場所ヲ除キタル地域トス  
一 「ウリウ」川及「トコンボ」川流域以南能登呂半島一圓  
二 「トマリオロ」川流域一圓

三 東ハ分水嶺ヲ界トシ北ハ「トマリオロ」川流域ヨリ南「オテフコロ」川流域ニ至ル間一圓  
四 第一支流落合基點ヨリ上流内淵川流域一圓

五 第一支流落合基點ヨリ上流「プスタキ」川流域一圓  
六 「エストル」川流域一圓

七 「ナヤシ」川口ト「セルトナイ」川口トヲ連結シタル直線ヨリ東方一千間ノ間一圓  
八 「ナヨロ」川以北國境ニ至ル間ノ幹線道路ト其ノ西方分水嶺トノ間一圓

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年内務省令第十一號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○砂鑛法ヲ樺太ニ施行スルノ件 明治四十二年六月三十日

勅令第四百七十八號

朕砂鑛法ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

砂鑛法ハ之ヲ樺太ニ施行ス但シ同法中主務大臣及鑛山監督署長ノ職務ハ當分ノ内樺太廳長官之ヲ行フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○漁業法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件 明治四十年三月三十一日

勅令第九十七號

朕漁業法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

漁業法第一條、第三條、第六條乃至第十三條、第十七條、第二十六條乃至第三十條、第三十二條ハ之ヲ樺太ニ施行ス

漁業法第七條ノ規定ハ土人ノ漁業ニ關シテ之ヲ適用セス樺太廳長官ニ於テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

樺太ニ於テ鑛業ヲ許可スヘキ區域 砂鑛法ヲ樺太ニ施行スルノ件  
漁業法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件

明治四十一年十月八日  
勅令第二百五十一號

朕漁業法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

漁業法第十四條、第十五條、第十八條、第十九條、第二十一條乃至第二十五條ハ之ヲ樺太ニ施行ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○樺太漁業令 明治四十年三月三十一日(改正四一年勅三一)  
勅令第九十六號 (二五二號)

朕樺太漁業令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

樺太漁業令

- 第一條 本令ハ鮭、鱒及鯡ノ漁業ニ適用シ其ノ以外ノ漁業ニ關シテハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 漁業ハ各漁場毎ニ年限ヲ定メ毎年納付スヘキ漁業料ヲ競争入札ニ付シ落札者ニ之ヲ免許ス但シ樺太廳長官ノ特ニ指定シタル一定ノ區域内ニ住所ヲ有スル漁業者ノ漁業組合ニ對シテハ樺太廳長官ニ於テ漁場ヲ指定シ漁業料ヲ定メ競争入札ニ依ラスシテ漁業ヲ免許スルコトヲ得(四一年勅二五二號)
- 競争入札ニ於テハ樺太廳長官ノ豫定スル金額以上ノ最高額ノ入札ヲ爲ス者ヲ落札者トス但シ同額ノ入札者二人以上アルトキハ抽籤ニ依リ落札者ヲ定ム
- 樺太廳長官ハ競争入札加入者ノ資格ヲ定ムルコトヲ得

第三條 漁業權者ハ行政官廳ノ許可ヲ得無料ニテ薪炭用、住宅其ノ他漁業ニ要スル建築及工作用並漁

船漁具用ノ爲漁場附近ノ國有山林ヲ伐採スルコトヲ得

漁業權者ハ行政官廳ノ許可ヲ得無料ニテ住宅其ノ他建築及工作用敷地、漁船漁具置場、網乾場、海

産乾場並蔬菜園ニ必要ナル國有海濱地ヲ使用スルコトヲ得

本條ノ規定ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ鮭、鱒、鯡以外ノ漁業ヲ爲ス者ニ適用スルコトヲ得但シ

料金ヲ納付セシムルコトヲ要ス

第四條 漁業料ノ納付ニ關スル規定ハ樺太廳長官之ヲ定ム

既納ノ漁業料ハ如何ナル場合ト雖之ヲ還付セス

第五條 鮭、鱒及鯡漁業ノ爲使用スヘキ漁具ハ建網トス但シ鮭、鱒漁業ニハ地曳網ヲ使用スルコトヲ得

前項但書ニ依リ地曳網ヲ使用スル場合ニハ建網ヲ使用スルコトヲ得ス

第六條 各漁場ニ使用スル建網ハ一統ニ限ル但シ漁場ノ狀況ニ依リ鯡漁業ニ限リ樺太廳長官ハ別ニ定ム

ル所ニ依リ副網トシテ建網一統ノ使用ヲ許可スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ副網料ヲ納付スヘシ

前條但書ニ依ル地曳網ハ各漁場一統ニ限ル

附則

第八條 本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九條 本令施行ノ際現ニ漁業ノ特許證ヲ有スル者ハ特許證ノ定ムル所ニ從ヒ本令ノ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

前項ノ漁業者ニシテ特許證ニ定メタル期間ノ經過後繼續シテ漁業ヲ爲サムトスル者ハ樺太廳長官ノ定メタル期間内ニ漁業ノ免許ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ樺太廳長官ハ當該漁場ノ漁業ニ付競争入札ニ依ラスシテ漁業料ヲ定メ免許スルコトヲ得

第九條ノ二(三二八號) 樺太廳長官ノ指定スル漁場ヲ土人ニ貸付スル場合ニ於テハ第二條及第六條中副網料ニ關スル規定ヲ適用セス

第十條 本令ハ土人ニシテ土人以外ノ者ヲ使用セス漁業ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用セス

○樺太ニ於テ免許ヲ受クヘキ漁業ノ種類 明治四十年四月四日 內務省令第五號

漁業法第三條ニ依リ樺太ニ於テ免許ヲ受クヘキ漁業ノ種類左ノ如シ

- 一 鯨、鱈、鮭ノ建網漁業
- 二 一定ノ引揚場ヲ有スル鱈、鮭ノ地曳網漁業

○樺太ニ於ケル漁業組合規則 明治四十一年十月九日 內務省令第十七號

樺太ニ於ケル漁業組合規則ハ明治三十五年農商務省令第八號漁業組合規則ヲ準用ス但シ同則第四十八條中「地區内ニ」ノ下「一箇年以上」ヲ削ル

本令ハ明治四十一年勅令第二百五十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○樺太ニ於ケル水産組合規則 明治四十一年十月九日 內務省令第十八號

樺太ニ於ケル水産組合規則ハ明治三十五年農商務省令第九號水産組合規則ヲ準用ス  
本令ハ明治四十一年勅令第二百五十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○樺太ニ於ケル小學校ニ關スル件 明治四十一年三月二十日 勅令第四十五號

朕樺太ニ於ケル小學校ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 樺太ニ於ケル小學校ニ關シテハ小學校令中第一條乃至第三條、第五條、第十六條乃至第三十三條、第三十五條乃至第三十九條、第四十二條、第四十三條及第四十五條乃至第四十八條ノ規定ニ依ル但シ文部大臣ノ職務ハ內務大臣、府縣知事ノ職務ハ樺太廳長官、市町村長ノ職務ハ樺太廳支廳長之ヲ行フ

第二條 小學校令ノ規定ニ依リ難キ場合アルトキハ樺太廳長官ニ於テ內務大臣ノ許可ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第三條 樺太ニ於ケル小學校ノ正教員及准教員ハ普通免許狀又ハ府縣免許狀ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

第四條 樺太廳立小學校職員ノ名稱待遇及等級配當方ニ關シテハ明治二十四年勅令第二百十八號及明治二十五年勅令第三十九號ノ規定ニ依ル

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

樺太ニ於テ免許ヲ受クヘキ漁業ノ種類 樺太ニ於ケル漁業組合規則 樺太ニ於ケル水産組合規則 下卷 七七九  
樺太ニ於ケル小學校ニ關スル件

○樺太ノ小學校ニ關スル件施行方 明治四十一年三月三十一日 (改正四二年省)

樺太ノ小學校ニ關スル件施行方左ノ通之ヲ定ム

第一條 明治四十一年勅令第四十五號第一條ニ依リ内務大臣ニ於テ定ムヘキ事項ニ付テハ小學校令施行規則中第九十八條乃至第百二十一條、第百三十二條、第百五十九條、第百七十條、第百七十二條、第百七十四條乃至第百八十五條、第百九十二條乃至第百九十三條ヲ除キ其ノ他ノ規程ヲ準用ス

(省一號) (四一年) 第一條ノ二(四一年) 私立小學校長及教員ノ採用解職ハ設立者ニ於テ豫メ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 小學校令施行規則中ニ規定スル文部大臣ノ職務ハ内務大臣府縣知事ノ職務ハ樺太廳長官郡市町村長ノ職務ハ樺太廳長官之ヲ行フ但シ小學校令施行規則第百六十八條、第百六十九條ニ規定スル郡市長ノ職務ハ樺太廳長官之ヲ行フ

第三條 樺太廳立小學校教員ニハ本俸十分ノ八ノ加俸ヲ給ス

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○樺太移住民ニ對スル汽車汽船ノ特別取扱方 明治四十一年三月四日

内務省告示第十八號 (改正四一年省) (改正二八年號)

樺太移住民ニ對スル汽車汽船ノ特別取扱方左ノ通相定メ本年三月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 樺太移住民ニシテ汽車汽船ノ特別取扱ヲ受ケントスル者ハ居住地ノ道府縣廳又ハ地方長官ノ指定シタル官公署ニ申出テ割引券ノ下付ヲ請フヘシ

止ムヲ得サル事故ノ爲居住地ニ於テ割引券ヲ受ケサル者ハ旅行先ノ當該官公署ニ其ノ交付ヲ請フコトヲ得

第二條 前條ノ割引券ヲ携帶スル者ハ移住ノ往路ニ限リ左ノ區別ニ依リ日常必要ノ家具、衣類、農具、食料等ノ携帶品共無賃又ハ割引ヲ以テ乘車乘船スルコトヲ得但汽車汽船共三等ニ限ル

汽車汽船所屬	無賃又ハ割引額	豐川鐵道株式會社ノ鐵道	五割引
樺太廳所管ノ鐵道	無賃	尾西鐵道株式會社ノ鐵道	三割引
遞信省所管ノ鐵道	五割引	中越鐵道株式會社ノ鐵道	五割引
佐野鐵道株式會社ノ鐵道	五割引	南海鐵道株式會社ノ鐵道	五割引
川越鐵道株式會社ノ鐵道	五割引	河南鐵道株式會社ノ鐵道	五割引
青梅鐵道株式會社ノ鐵道	五割引	高野鐵道株式會社ノ鐵道	五割引
水戸鐵道株式會社ノ鐵道	五割引	中國鐵道株式會社ノ鐵道	五割引
成田鐵道株式會社ノ鐵道	五割引	博多灣鐵道株式會社ノ鐵道	五割引
東武鐵道株式會社ノ鐵道	五割引	伊豫鐵道株式會社ノ鐵道	五割引
龍崎鐵道株式會社ノ鐵道	五割引	日本郵船株式會社 <small>神戶小樽線及青森函館線</small>	三割引
上武鐵道株式會社ノ鐵道	五割引	會社ノ汽船 <small>函館樺太線</small>	五割引
伊豆鐵道株式會社ノ鐵道	六割引	日本商船株式會社ノ汽船	五割引

東京灣汽船株式會社ノ汽船	二割引	北海道米林伊三郎ノ汽船	五割引
本間合名會社ノ汽船	五割引	北海道濱根岸太郎ノ汽船	五割引
北海道本間泰藏ノ汽船	五割引	北海道山本元吉ノ汽船	五割引
北海道麻里英三ノ汽船	五割引	兩羽汽船株式會社ノ汽船	五割引
北海道山本久右衛門ノ汽船	五割引	越佐汽船株式會社ノ汽船	五分
北海道牧口照吉ノ汽船	五割引	直江津商船株式會社ノ汽船	三分
北海道金子元三郎ノ汽船	五割引	中越汽船株式會社ノ汽船	五割引
北海道松江喜藏ノ汽船	五割引	石川縣西出孫左衛門ノ汽船	五割引
北海道矢崎常三郎ノ汽船	五割引	石川縣永野彌平ノ汽船	五割引
北海道藤山要吉ノ汽船	五割引	大阪府大坪嘉太郎ノ汽船	五割引
大山合資會社ノ汽船	五割引	大阪府藤野四郎兵衛ノ汽船	五割引
千島汽船合資會社ノ汽船	五割引	大阪府河邊九郎三郎ノ汽船	五割引
北海產業合資會社ノ汽船	五割引	大阪府永田三十郎ノ汽船	五割引
北海道山崎松藏ノ汽船	五割引	知多航業株式會社ノ汽船	五割引
北海道澤口庄助ノ汽船	五割引	山口縣島谷德三郎ノ汽船	五割引
北海道山縣勇三郎ノ汽船	五割引	兩島汽船株式會社ノ汽船	五割引(四一年告)
北海道服部半左衛門ノ汽船	五割引	北海道小林初太郎ノ汽船	五割引(同上)
北海道平出喜三郎ノ汽船	五割引	北海道相馬市作ノ汽船	五割引(同上)

第三條 遞信省所管ノ鐵道ニ於ケル乘車地降車地ハ左ノ如シ

乘 車 地

北海道、山陽、九州、中央西、北陸、京都、阪鶴、七尾、關西、參宮線各驛  
 武豐、中央西、關西、參宮線及名古屋神戶間各驛  
 九州線各驛  
 北陸、七尾線各驛  
 信越、中央東、北越線各驛  
 奥羽線各驛  
 日本、岩越線各驛  
 山陰線各驛  
 德島線各驛  
 鹿兒島線各驛  
 總武、房總線各驛  
 北海道線各驛

降 車 地

大阪、神戸、橫濱、平沼、青森驛  
 湊町、四日市驛  
 門司驛  
 敦賀、金津、高岡、伏木驛  
 直江津、新潟、橫濱、青森驛  
 青森、能代、土崎驛  
 青森、橫濱驛  
 境驛  
 德島驛  
 鹿兒島驛  
 兩國橋、青森驛  
 小樽、函館、室蘭、釧路驛

第四條 前條以外ノ鐵道ニシテ行先地ヲ指定スルモノ左ノ如シ

成田鐵道株式會社ノ鐵道 青森驛

第五條 割引券ハ避クヘカラサル事故ニ依リ滅失シタルモノ、外再ヒ之ヲ下付セス

第六條 割引券ノ様式ハ左ノ如シ  
 様式(略)

### 行政訴訟並願

○行政裁判法 明治二十三年六月二十八日  
法律第四十八號

朕行政裁判法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 行政裁判法

##### 第一章 行政裁判所組織

第一條 行政裁判所ハ之ヲ東京ニ置ク

第二條 行政裁判所ニ長官一人及評定官ヲ置ク評定官ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

行政裁判所ニ書記ヲ置ク其員數及職務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 長官ハ勅任トス評定官ハ勅任又ハ奏任トス

長官及評定官ハ三十歳以上ニシテ五年以上高等行政官ノ職ヲ奉シタル者若クハ裁判官ノ職ヲ奉シタル者ヨリ内閣總理大臣ノ上奏ニ依リ任命セラルルモノトス  
書記ハ長官之ヲ判任ス

第四條 長官及評定官ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 公然政事ニ關係スルコト
- 二 政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ衆議院議員府縣郡市町村會ノ議員若クハ參事會員タルコト



三 兼官ノ場合ヲ除ク外俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就クコト

四 商業ヲ營ミ其他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ムコト

第五條 第六條ノ場合ヲ除ク外長官及評定官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラルルコトナシ

行政裁判所ノ長官又ハ評定官ヲ兼任スル者ハ其本官在職中前項ヲ適用ス

懲戒處分ノ法ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 長官及評定官身體若クハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ内閣總理大臣ハ行政裁判所ノ總會ノ決議ニ依リ其退職ヲ上奏スルコトヲ得

第七條 長官ハ行政裁判所ノ事務ヲ總理ス

長官故障アルトキハ評定官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其先ナル者之ヲ代理ス

第八條 長官ハ自ら裁判長トナリ若クハ評定官ニ裁判長ヲ命スルコトヲ得

部ヲ分ツノ必要アルトキハ其組織及事務分配ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第九條 行政裁判所ノ裁判ハ裁判長及評定官ヲ併セ五人以上ノ列席合議ヲ要ス但列席ノ人員ハ奇數ニ限ル若シ缺席ノ爲偶數トナリタルトキハ官等最モ低キ評定官ヲ議決ヨリ除ク官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其後ナル者ヲ除ク

議決ハ過半数ニ依ル

第十條 長官又ハ評定官ハ左ノ場合ニ於テ評議及議決ニ加ハルコトヲ得ス

一 裁判スヘキ事件自己又ハ父母兄弟姉妹若クハ妻子ノ身上ニ關スルトキ

二 裁判スヘキ事件一人ノ資格ヲ以テ意見ヲ述ヘタルモノ又ハ理事者代理者若クハ職務外ノ地位ニ於テ取扱ヒタルモノニ關スルトキ

三 裁判スヘキ事件行政官タルノ資格ヲ以テ其事件ノ處分又ハ裁決ニ參與シタルモノニ關スルトキ

第十一條 前條ノ場合ニ於テ原告又ハ被告ハ原因ヲ説明シテ文書又ハ口頭ヲ以テ長官又ハ評定官ヲ忌避スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十二條 忌避若クハ除斥ノ原因タル事情ニ付キ長官又ハ評定官ヨリ申出アルトキ又ハ他ノ事由ヨリシテ長官又ハ評定官カ法律ニ依リ評議及決議ニ加ハルヲ得サルノ疑アルトキハ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十三條 行政裁判所ノ處務規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 行政訴訟ノ辯護人タルコトヲ得ルハ行政裁判所ノ認許シタル辯護士ニ限ル

第二章 行政裁判所ノ權限

第十五條 行政裁判所ハ法律勅令ニ依リ行政裁判所ニ出訴ヲ許シタル事件ヲ審判ス

第十六條 行政裁判所ハ損害要償ノ訴訟ヲ受理セス

第十七條 行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外地方上級行政廳ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

各省大臣ノ處分又ハ内閣直轄官廳又ハ地方上級行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

各省又ハ内閣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第十八條 行政裁判所ノ判決ハ其事件ニ付キ關係ノ行政廳ヲ羈束ス

第十九條 行政裁判所ノ裁判ニ對シテハ再審ヲ求ムルコトヲ得ス

第二十條 行政裁判所ハ其權限ニ關シテハ自ラ之ヲ決定ス

行政裁判所ト通常裁判所又ハ特別裁判所トノ間ニ起ル權限ノ爭議ハ權限裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第二十一條 行政裁判所ノ判決ノ執行ハ通常裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第三章 行政訴訟手續

第二十二條 行政訴訟ハ行政廳ニ於テ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ告知シタル日ヨリ六十日以内

ニ提起スヘシ六十日ヲ經過シタルトキハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ス但法律勅令ニ特別ノ規程アルモ

ノハ此限ニ在ラス

訴訟提起ノ日限其他此法律ニ依リ行政裁判所ノ指定スル日限ノ計算竝ニ災害事變ノ爲メ遷延シタル

期限ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス

第二十三條 行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外行政廳ノ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止

セス但行政廳及行政裁判所ハ其職權ニ依リ又ハ原告ノ願ニ依リ必要ト認ムルトキハ其處分又ハ裁決

ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第二十四條 行政訴訟ハ文書ヲ以テ行政裁判所ニ提起スヘシ

法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十五條 訴狀ハ左ノ事項ヲ記載シ原告署名捺印スヘシ

一 原告ノ身分、職業、住所、年齢

二 被告ノ行政廳又ハ其他ノ被告

三 要求ノ事件及其理由

四 立證

五 年月日

訴狀ニハ原告ノ經歷シタル訴願書裁決書竝ニ證據書類ヲ添フヘシ

第二十六條 訴狀ニハ被告ニ送付スル爲メニ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

第二十七條 行政裁判所ハ原告ノ訴狀ニ就テ審査シ若シ法律勅令ニ依リ行政訴訟ヲ提起スヘカラサル

モノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ其理由ヲ付シタル裁決書ヲ以テ之ヲ却下スヘ

シ

其訴狀ノ法式ヲ缺クニ止マルモノハ之ヲ改正セシムル爲メ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

第二十八條 行政裁判所ニ於テ訴狀ヲ受理シタルトキハ其副本ヲ被告ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シテ

答辯書ヲ差出サシムヘシ

答辯書ニハ原告ニ送付スル爲メ必要ノ文書ノ副本ヲ添フヘシ

第二十九條 行政裁判所ハ必要ナリト認ムルトキハ其期限ヲ指定シテ原告被告交互ニ辯駁書及再度ノ

答辯書ヲ差出サシムヘシ

第三十條 行政裁判所ハ訴狀及答辯書ノ附屬文書ノ副本ヲ原告被告交互ニ送付スル代リニ所内ニ於テ

之ヲ閱覽セシムルコトヲ得

第三十一條 行政裁判所ハ訴訟審問中其事件ノ利害ニ關係アル第三者ヲ訴訟ニ加ハラシメ又ハ第三者

ノ願ニ依リ訴訟ニ加ハルコトヲ許可スルヲ得

前項ノ場合ニ於テハ行政裁判所ノ判決ハ第三者ニ對シテモ亦其效力ヲ有ス

第三十二條 行政官廳ハ其官吏又ハ其申立ニ依リ主務大臣ヨリ命シタル委員ヲシテ訴訟代理ヲ爲サシムルコトヲ得

代理者ハ委任狀ヲ以テ代人タルコトヲ證明スヘシ

第三十三條 行政裁判所ハ豫メ指定シタル期日ニ於テ原告被告及第三者ヲ召喚シテ審廷ヲ開キ口頭審問ヲ爲スヘシ

原告被告及第三者ニ於テ口頭審問ヲ爲スコトヲ望マサル旨ヲ申立タル場合ニ於テハ行政裁判所ハ文書ニ就キ直ニ判決ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 審廷ニ於テハ原告被告及第三者ノ辯明ヲ聽クヘシ

審廷ニ於テハ裁判長ノ許可ヲ得タル者ヨリ順次發言スヘシ

原告被告及第三者ハ事實上及法律上ノ點ニ就キ文書ニ盡ササル所ヲ補足シ又ハ誤謬ヲ更正シ若クハ新ニ證據ヲ提出シ及證書ヲ提示スルコトヲ得

第二十五條 主務大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ公益ヲ辯護スル爲メ委員ヲ命シ審廷ニ差出スコトヲ得

行政裁判所ハ判決ヲ爲ス前ニ委員ヲシテ意見ヲ陳述セシムヘシ

第三十六條 行政裁判所ノ對審判決ハ之ヲ公開ス

安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリ又ハ行政廳ノ要求アルトキハ行政裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第三十七條 公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ公衆ヲ退カシムルノ前之ヲ言渡ス

第三十八條 行政裁判所ハ原告被告及第三者ニ出廷ヲ命シ並ニ必要ト認ムル證據ヲ徵シ證人及鑑定人

ヲ召喚シ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

證人又ハ鑑定人トシテ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲スヘキ義務ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス其義務ヲ盡ササル場合ニ於テ處分スヘキ科罰ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

行政裁判所ハ口頭審問ニ於テ舉證ノ手續ヲ爲シ又ハ評定官ニ委任シ若クハ通常裁判所又ハ行政廳ニ囑託シテ之カ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十九條 行政裁判所ニ於テ審問中ノ事件ニ關シ民事上ノ訴訟起ルコトアリテ通常裁判ノ確定ヲ待ツノ必要アリト認ムルトキハ其審判ヲ中止スルコトヲ得

第四十條 審問手續ニ關スル故障ノ申立ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

第四十一條 召喚ノ期日ニ於テ原告若クハ被告若クハ第三者出廷セサルコトアルモ行政裁判所ハ其審判ヲ中止セス

原告被告及第三者共ニ出廷セサルトキハ行政裁判所ハ審問ヲ行ハス直ニ判決ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 裁判宣告書ハ理由ヲ付シ裁判長評定官及書記之ニ署名捺印シ其謄本ニ行政裁判所ノ印章ヲ捺シ之ヲ原告被告及第三者ニ交付スヘシ

行政訴訟ノ文書ニハ訴訟用印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第四十三條 行政訴訟手續ニ關シ此法律ニ規程ナキモノハ行政裁判所ノ定ムル所ニ依リ民事訴訟ニ關スル規程ヲ適用スルコトヲ得

第四章 附則

第四十四條 此法律ハ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

第四十五條 第二十條第二項ノ權限爭議ハ權限裁判所ヲ設クル迄ノ間樞密院ニ於テ之ヲ裁定ス

裁定ノ手續ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル  
 第四十六條 従前ノ法令ニシテ此法律ト抵触スルモノハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス  
 第四十七條 此法律施行ノ前既ニ行政訴訟トシテ受理シ審理中ニ係ルモノハ仍従前ノ成規ニ依リ處分  
 スヘシ

○行政裁判所處務規程

明治二十三年八月二十九日 (改正三十四年勅令第九十二號)

朕行政裁判所處務規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

行政裁判所處務規程

第一條 (三十四年勅令第七三號) 行政裁判所部長故障アルトキハ其部ノ評定官行政裁判法第七條第二項ノ順序ニ從ヒ之ヲ代理ス  
 行政裁判所評定官故障アルトキハ其部ノ評定官行政裁判法第七條第二項ノ順序ニ從ヒ  
 第二條 (同上) 部長ハ一事件毎ニ審判準備ノ爲メ其部ノ評定官中ノ一名若ハ二名ニ專理員ヲ指命スルコトヲ得  
 專理員ハ合議ノ際先ツ事實、證據及爭點ニ付説明ヲ爲スヘシ  
 第三條 (同上) 判決ハ審問終結シタル期日又ハ其期日ヨリ十四日以内ニ之ヲ言渡スヘシ  
 第四條 裁判長行政裁判法第三十八條第二項ノ場合ニ於テ科罰ヲ言渡シタルトキハ書記ヲシテ訴訟ノ記録ニ之ヲ記入セシム

第五條 毎年七月十一日ヨリ九月十日マテノ間ハ行政裁判所ニ於テ緊急ノ事項ト認ムルモノノ外既ニ著手シタル訴訟ヲ中止シ竝ニ新ナル訴訟ニ著手セズ

第六條 行政裁判所ノ總會議ハ評定官總員三分ノ二以上列席スルニ非サレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 總會議ノ議事ハ長官之ヲ整理ス若シ長官故障アルトキハ評定官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス

第七條ノ二(同上) 法規ノ解釋ニ付判例ヲ變更セムトスルトキ又ハ法規ノ解釋ヲ一定スルノ必要アルトキハ長官ハ之ヲ總會議ノ議ニ付ス

第八條 行政裁判所ハ訴訟ノ呼出狀及其他ノ書類ヲ使丁若ハ郵便ヲ以テ送達シ又ハ通常裁判所ニ囑託シテ送達セシムルコトヲ得

第九條 行政裁判所ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ其職權ニ屬スル事件ニ付告示ヲ發スルコトヲ得

第十條 行政裁判所長官ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ事務取扱ノ順序方法ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

書記ノ職務ニ關スル規程ハ行政裁判所之ヲ定ム

○行政訴答書書式

明治二十四年七月十四日 行政裁判所告示第一號

行政訴答書書式左ノ通相定ム

何々訴狀

住所身分職業若クハ何府何市何町何職

原告氏

名



被告 氏 名印  
〔訴訟代理人ナルトキハ代理人署名〕  
捺印スヘシ

行政裁判所長官宛

(答書ハ正副兩通ヲ出スヘシ)

證據物寫

何、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、

右相違無之候也  
年 月 日

行政裁判所長官宛

原告(被告)氏

〔訴訟代理人ナルトキハ代理人署名〕  
捺印スヘシ 名印

〔證據物寫ハ正副兩通ヲ出スヘシ若シ被告數名ニシテ其住居各八里以上チ離隔スルトキハ其數ニ應ジテ發出スヘシ〕

○行政訴訟豫納金手續 明治三十二年四月一日(改正三三年)

行政訴訟豫納金手續左ノ通改正ス

豫納金手續

第一條 行政訴訟ヲ爲ス者又ハ參加人トナル者ハ書類送達等ノ費用ニ充ツルタメ金貳圓ヲ豫納ヘスシ

第二條(三二年) 證人鑑定人ノ喚問其他證據調ニ關シ費用ヲ要スルトキハ其申請者ヨリ之ヲ豫納スヘシ

但行政裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ命シタル場合ニ於テハ行政裁判所其豫納者ヲ指定ス

第三條 訴訟費用確定決定ノ申請ヲ爲ス者ハ書類送達等ノ費用ニ充ツルタメ金壹圓ヲ豫納スヘシ

第四條 前三條ノ豫納金ニシテ不足ナルトキハ更ニ追納ヲ爲スヘシ

其金額ハ其都度之ヲ定ム

第五條 豫納金ハ現金又ハ郵便爲替券ヲ以テ之ヲ行政裁判所ニ納付スヘシ

但拂渡局ハ東京郵便電信局麹町支局宛タルヘシ

第六條 豫納金ノ殘額アルトキハ事件終局ノ後之ヲ還付ス

○行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件 明治二十三年十月九日

行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム 法律第六百六號

法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

- 一 海關稅ヲ除ク外租稅及手數料ノ賦課ニ關スル事件
- 二 租稅滯納處分ニ關スル事件
- 三 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件
- 四 水利及土木ニ關スル事件

行政訴訟豫納金手續 行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件

五 土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル事件

○訴願法 明治二十三年十月九日  
法律第百五號

朕訴願法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

訴願法

第一條 訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付之ヲ提起スルコトヲ得

一 租税及手数料ノ賦課ニ關スル事件

二 租税滯納處分ニ關スル事件

三 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件

四 水利及土木ニ關スル事件

五 土地ノ官民有區分ニ關スル事件

六 地方警察ニ關スル事件

其他法律勅令ニ於テ特ニ訴願ヲ許シタル事件

第二條 訴願セントスル者ハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シ直接上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ

訴願ノ裁決ヲ受ケタル後更ニ上級行政廳ニ訴願スルトキハ其裁決ヲ爲シタル行政廳ヲ經由スヘシ

國ノ行政ニ付此法律ニ依リ郡參事會又ハ市參事會ノ處分若クハ裁決ニ對シテ訴願セントスル者ハ其處分若クハ裁決ヲ爲シタル郡參事會又ハ市參事會ヲ經由シテ府縣參事會ニ之ヲ提起スヘシ

第三條 各省大臣ノ處分ニ對シ訴願セントスル者ハ其省ニ之ヲ提起スヘシ

第四條 裁判所ノ裁判各省ノ裁決及第二條第三項府縣參事會ノ裁決ヲ經タルモノハ其事件ニ付更ニ訴願スルコトヲ得ス

第五條 訴願ハ文書ヲ以テ之ヲ提起スヘシ

訴願書ノ侮辱誹毀ニ涉ルモノハ之ヲ受理セス

第六條 訴願書ハ其不服ノ要點理由要求及訴願人ノ身分職業住所年齡ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ訴願書ニハ證據書類ヲ添ヘ竝下級行政廳ノ裁決ヲ經タルモノハ其裁決書ヲ添フヘシ

第七條 多數ノ人員共同シテ訴願セントスルトキハ其訴願書ニ各訴願人ノ身分職業住所年齡ヲ記載シ署名捺印シ其中ヨリ三名以下ノ總代人ヲ選ヒ之ニ委任シ總代委任ノ正當ナルコトヲ證明スヘシ

法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第八條 行政處分ヲ受ケタル後六十日ヲ經過シタルトキハ其處分ニ對シ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ノ裁決ヲ經タル訴願ニシテ其裁決ヲ受ケタル後三十日ヲ經過シタルモノハ更ニ上級行政廳ニ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ニ於テ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得

第九條 法律勅令ニ依リ訴願ヲ提起スヘカラサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ之ヲ却下ス

第十條 其訴願書ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

郵便遞送ノ日數ハ第八條ノ訴願期限内ニ之ヲ算入セス

第十條 訴願書ハ郵便ヲ以テ之ヲ差出スコトヲ得

郵便遞送ノ日數ハ第八條ノ訴願期限内ニ之ヲ算入セス

第十條 訴願書ハ郵便ヲ以テ之ヲ差出スコトヲ得

第十條 訴願書ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

第十條 訴願書ハ郵便ヲ以テ之ヲ差出スコトヲ得

第十條 訴願書ハ郵便ヲ以テ之ヲ差出スコトヲ得

第十一條 第二條第一項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ十日以內ニ辯明書及必要文書ヲ添へ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ

第二條第二項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ三日以內ニ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ

第二條第三項ノ場合ニ於テ訴願書ヲ發送スルトキ亦前二項ノ例ニ依ルヘシ

第十二條 訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外行政處分ノ執行ヲ停止セス但行政廳ハ其職權ニ依リ又ハ訴願人ノ願ニ依リ必要ナリト認ムルトキハ其執行ヲ停止スルコトヲ得

第十三條 訴願ハ口頭審問ヲ爲サス其文書ニ就キ之ヲ裁決ス但行政廳ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ口頭審問ヲ爲スコトヲ得

第十四條 訴願ノ裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其理由ヲ付スヘシ訴願ヲ却下スルトキ亦同シ

第十五條 訴願ノ裁決書ハ其處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ之ヲ訴願人ニ交付スヘシ訴願書ヲ却下スルトキ亦同シ

第十六條 上級行政廳ニ於テ爲シタル裁決ハ下級行政廳ヲ羈束ス

第十七條 訴願ノ手續ニ關シ他ノ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノハ各其規程ニ依ル

附則

第十八條 明治十五年<sup>十二月</sup>第五十八號布告請願規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十九條 此法律施行ノ前請願規則ニ依リ受理シタル請願ハ仍其規則ニ依リ之ヲ處分ス

請願規則ニ依リ下級行政廳ノ指令ヲ受ケタル者訴願スルヲ得ヘキ場合ニ於テ更ニ訴願セントスルトキハ此法律ニ從ヒ其上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ

第二十條 第八條ノ訴願期限ハ此法律施行ノ前行政處分ヲ受ケ又ハ請願規則ニ依リ指令ヲ受ケタル事件ニシテ其處分又ハ指令ヲ受ケタル日ヨリ滿五年ヲ經過セサルモノニ對シテハ此法律施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條 行政廳ニ呈出スル請願ハ此法律ニ依ルノ限ニ在ラス



○社團財團ヲ法人ト爲スニ付申請方

明治三十二年四月二十八日  
內務省令第十號

第一條 社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ依リ之ヲ法人ト爲スニ付內務大臣ノ許可ヲ要スルモノハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由シ其ノ申請書ニ通テ差出スヘシ其ノ許可ヲ得テ設立シタル法人及民法施行法第十九條ノ法人ニ於テ內務大臣ノ認可ヲ要スル場合亦同シ

第二條 前條ノ法人ヨリ內務大臣ニ差出スヘキ願届書ハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

○年齢計算ニ關スル法

明治三十五年十二月一日  
法律第五十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル年齢計算ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

年齢ハ出生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

民法第四百三條ノ規定ハ年齢ノ計算ニ之ヲ準用ス

明治六年第三十六號布告ハ之ヲ廢止ス

法規類抄下卷畢

法規類抄編年目次

明治元年

太 政 官

三月二十八日布告 菊御紋章並皇室ニ關スル文字濫用取締ノ件

中下 七〇二頁

明治二年

太 政 官

八月二十五日布告 社寺菊御紋使用ニ關スル件

下 四二六

明治三年

太 政 官

四月二十二日布告 頒曆授時

中下 八〇〇

十月十四日布告 府縣廳等門支關ニ御紋ノ幕提燈ヲ用フ

上 四六一

明治四年

太 政 官

十二月十四日布告 治水修路架橋運輸ノ便ヲ興ス者ニ入費税金徵收ヲ許ス

中上 五五六

六月二十日達 棄兒養育米給與方

中上 五九六

明治五年

太 政 官

布告 三三五 道路掃除條目

中上 五五四

明治六年

太政官

布告 五三 官幣諸社祭典地方官ニ於テ執行

布告 七九 三子養育料給與方

布告 一三八 棄兒養育米下渡年齡

布告 二四九 社寺什物類神官僧侶等恣ニ處分スルヲ禁ス

達 教部省

一三 官國幣社並府縣社制札様式

明治七年

太政官

布告 一三〇 地所名稱區別

達 一六二 恤救規則

四月二日達 社寺菊御紋使用ニ關スル件

達 教部省

達書 二二 禁厭祈禳ニ關スル取締方

達書甲 一 官國幣社社務所ノ名稱

達書甲 一七 官國幣社御靈代伺ヲ經ス拜見ヲ許サス

達乙 三三 禁厭祈禳ニ關スル取締方

明治八年

二

達

太政官

二九

行政警察規則

服忌令概表

中

六四三

十二月二十日布達

式部寮

神宮及官國幣社諸陵墓等祭典ノ節坐禮立禮著服區別

下

四四七

内務省

達乙 八五

救民恤救申請調査箇條

中上

五九四

達乙 一一三

廢合寺院跡地並建物處分規則

下

四一四

大藏省

達乙 六三

恤救米棄兒養育米等支給方

中上

五九七

教部省

布達 一

神社分社遙拜所建設出願方

下

四一三

達 三四

府縣社以下祭典ハ神社祭式ニ準據適宜執行セシム

下

四五六

明治九年

太政官

達 五三

官舍貸渡規則

下

四〇三

達 六〇

道路分類等級

中上

五四六

達乙 七五

棄兒養育米全月末滿端日數ノ分ハ日割ヲ以テ支給

中上

五九七

編年目次

三

達乙	九二	巡查懲罰例	上	三三八
達乙	大藏省			
達乙	三三二	恤救米及棄兒養育米石代相場立方	中上	五九八
達書	教部省			
達書	三	社寺持添ノ田畑山林竝寄附金古文書等六年二百四十九號布告 ニ照準處分方	下	四一八
達書	八	神社分社遙拜所建設出願方	下	四一三
達書甲	三八	私邸内自祭ノ神祠佛堂へ衆庶參拜停止及建物等處分方	下	四一六
達書甲	五	神輿渡御ノトキ供奉者帶刀ヲ許ス	下	四五七
明治十年				
太政官				
布告	七	賣藥規則	中下	九八五
布告	二二	變死屍解剖検査ノ件	中下	七八二
布告	四三	社寺ノタメ金穀借入等ハ氏子檀家總代ノ連署ヲ要ス	下	四一八
明治十一年				
太政官				
布告	一七	郡區町村編制法	中上	四七七
內務省				
達乙	八	離末本寺換屆出方	下	四九八

達乙	二一	神輿渡御ノトキ供奉者帶刀ヲ許ス	下	四五七
達乙	五七	社寺取扱概則	下	四一一
明治十二年				
太政官				
達	二〇	社寺菊御紋使用ニ關スル件	下	四二七
達	二三	同上	下	四二七
達乙	內務省			
達乙	二九	社寺金穀借入抵當認可方	下	四一九
達甲	陸軍省			
達甲	一四	道路變換橋梁架設等陸軍省へ報告方	中上	五五三
明治十三年				
太政官				
布告	一六	地方稅規則	中上	一九六
布告	一七	地方稅中營業稅雜種稅ノ種類及制限	中上	一九八
達乙	內務省			
達乙	五二	社寺創立再興復舊等出願ノ節伺出條件	下	四一一
達乙	宮內省			
達乙	二	菊御紋章竝皇室ニ關スル文字濫用取締ノ件	中下	七〇三
明治十四年				

布告	太政官	六三	褒章條例	中上	五八三
達	內務省	八三	各地ニ唱フル字ハ漫ニ改稱變更スル勿ラシム	中上	一一三
布達甲	內務省	八	僧侶托鉢ニ關スル件	下	五〇三
達乙		二二	請願ニ依ル巡查配置ノ件	中上	二〇二
達乙		三三	社寺總代人選定ニ關スル件	下	四一七
達乙		三八	僧侶托鉢ニ關スル件	下	五〇四
達乙		五二	憲兵行政警察事務規程	中下	六四八
達戊		二	僧侶托鉢ニ關スル件	下	五〇四
明治十五年					
太政官					
布告		三六	戒嚴令	下	五二一
布告		四三	徵發令	下	五二四
布達		八	本曆略曆出版ノ件	中下	八〇一
布達	內務省	二六	徵發事務條例	下	五三二
達乙		四	葬儀執行ノ爲メ祠宇建設ノ儀出願ノ節伺出方	下	五〇七
達乙		七	神官ハ葬儀ニ關係セス府縣社以下神官ハ舊ニ依ル	下	五〇八

達乙		四二	禁厭祈禳ニ關スル取締方	下	五〇二
達乙		四八	神社分社遙拜所建設出願方	下	四一四
達乙		五五	社寺ノ守札及神佛號ヲ記載セル畫像ニ關スル件	中下	八〇二
達乙		五九	社寺建設及再建期限	下	四一二
達戊		一一	葬儀執行ノ爲メ祠宇建設ノ義出願ノ節伺出方	下	五〇八
達戊		三	禁厭祈禳ニ關スル取締方	下	五〇三
明治十六年					
太政官					
布告		一	金銀木杯金圓又ハ褒章ト金銀木杯金圓併賜方	中上	五八五
布告		六	石油取締規則	中下	六七六
布告		三一	徵發費用意納者處分並ニ其費用ニ關シ出訴方	下	五四二
達		一七	金銀木杯金圓賜與手續	中上	五八六
十月十六日賞勳局通牒木杯製式並賜金比較表					
內務省					
達乙		八	官國幣社祈年祭新嘗祭例祭ニ地方長次官及代理參向方	下	四四六
明治十七年					
太政官					
布告		七	地租條例	下	一五〇
布告		一四	區町村會法	中上	一一三

布告	一五	區町村費及土木費怠納者處分	中上	一二五
布達	一九	教導職ヲ廢シ教宗派ノ取締ヲ神佛各管長ニ委任スルノ件	下	四九六
布達	二五	墓地及埋葬取締規則	中下	七七九
達	六八	管長身分取扱方	下	四九七
達	八二	墓地及埋葬取締規則違犯者處分方	中下	七八〇
達乙	一六	佛像出開帳出願手續	下	五〇五
達乙	三七	神佛教務所說教所取調並諸願差出方	下	五〇六
達乙	三八	神佛教務所說教所設立移轉廢合並寺院住職進退届出方	下	五〇六
達乙	四〇	墓地及埋葬取締規則方法細目標準	中下	七八〇
達戊	二	神佛教務所說教所設立移轉廢合並寺院住職進退届出方	下	五〇七
明治十八年				
太政官				
布告	一三	預金規則	下	二〇〇
布告	二五	土地ニ賦課スル區町村費制限	中上	二二五
布達	一	國道幅員	中上	五四八
達	一六	文官傷痍疾病等差例	上	三六四
達甲	七	入齒齒抜口中療治接骨營業者取締方	中下	一〇六〇

達甲	一〇	鍼灸術營業差許方	中下	一〇五九
達甲	一六	官國幣社並社寺取扱方委任項目	下	四二五
明治十九年				
内閣				
閣	二三	官吏傳染病豫防救治ニ從事シ感染又ハ死亡シタルトキ手當金給與方	上	四三六
訓	一三	道路築造標準	中上	五四八
明治二十年				
勅令				
勅	二八	鎮守府ニ達スル道路ヲ國道ニ編入ノ件	中上	五四八
勅	三九	官吏服務紀律	上	三三〇
勅	五六	地方税ニ關スル寄附及雜收入ノ件	中上	二〇〇
勅	八三	陸軍准士官下士官採用規則	上	二八九
内閣				
閣	二〇	郡區長ノ試験ハ當分ノ内内務大臣ノ指定科目ニ依ル	上	三二六
内務省				
省	三	地方税ノ支辨ニ係ル道路ノ並木枯損木拂代金及寄附金品整理方	中上	二〇一

省訓	五	郡區長試驗條規	上	三一七
告	四五	社殿堂宇等公賣處分ヲ受ケタルトキ再建届出及猶豫期限	下	四二二
	二	衛生試驗所ニ於テ醫藥用ニ適スヘキモノト認メタル藥品ニ検査印紙貼用	中下	一〇〇六
明治二十一年				
法律	一	市制町村制	中上	一
勅令	六一	府縣警察費ニ對スル國庫下渡金ノ割合	中上	二〇三
	六二	東京市區改正條例	中上	五七七
閣	一二	貨座敷引手茶屋娼妓ノ賦金編入及警察機密費檢徵費支辨方	中上	二〇〇
訓	一七	地方稅又ハ區町村費ノ支辨ニ係ル堤塘使用料等取扱方	中上	二〇三
告	一一	夜間檢疫信號ノ件	中下	九一一
大藏省	九五	市制町村制中直接稅間接稅ノ類別	中上	一〇六
明治二十二年				
二月十一日		大日本帝國憲法	上	一

法律	一	徵兵令	下	五四三
法	二	議院法	上	一一
法	四	會計法	下	一
法	一〇	藥品營業並藥品取扱規則	中下	九九〇
法	一一	水利土功及學事ニ關スル會議存續ノ件	中上	一二六
法	一一	會計檢査院法	下	一一七
勅令	一	町村制ヲ施行セサル島嶼指定	中上	四七四
勅令	五	東京市區改正土地建物處分規則	中上	五七九
勅令	一一	貴族院令	上	九六
勅令	三九	土地臺帳規則	下	一五九
勅令	四一	貴族院令ノ直接國稅ノ種目	上	一一二
勅令	六〇	會計規則	下	九
勅令	七八	貴族院伯子男爵議員選舉規則	上	九八
勅令	七九	貴族院多額納稅者議員互選規則	上	一〇六
勅令	八四	物品會計規則	下	七五
勅令	八九	仕拂命令委任規程	下	五七
勅令	九五	會計年度開始前現金支出規則	下	六一

逐年目次

一一

勅	一二一	旅費其外概算渡前金渡ノ件	下	五九
勅	一二六	金庫規則	上	九八
勅	一三五	内閣官制	上	二二七
勅	一四一	沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收ノ件	下	二四六
内閣	一二二	歳入歳出豫算概定順序	下	二九
内閣	一九	豫定經費算出概則	下	三〇
一月二十四日訓	一九	官吏職務外ノ演説及叙述ヲ許シ其取締方ヲ定ム	上	三三二
省	一	各府縣下ニ存在スル公共財産等ニ關スル件	中	二〇四
省	二	市町村歳入出豫算表式	中	九八
省	四	藥品巡視規則	中	一〇〇八
訓	五	迷子ハ棄兒ニ準シ取扱方	中	五九八
訓	一八	各官廳へ圖書器物及金穀物件ヲ寄附スル者取計方	上	五九一
訓	二一	巡查精勤證書授與規則	上	三三〇
訓	二二	神佛各宗派内ノ者願書差出方	中	四九七
訓	三二	藥品監視員巡視施行及費用等支辨方並證票雛形	中	一〇〇九
訓	三八	工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハリ若ハ契約ヲ爲ス者ノ保證金額	下	三一
訓	四〇		下	三一

省	大藏省	六	土地臺帳規則施行細則	下	一六〇
省	明治二十三年	二六	前金渡概算渡ノ返納金ヲ定額ニ戻入スル取扱規程	下	六〇
二月二十七日	詔勅				
法律	一	貴族院令並ニ貴族院伯子男爵議員選舉規則及貴族院多額納稅者議員互選規則施行ノ詔	上	一一一	
法	九	保管金規則	下	一〇五	
法	三七	水道條例	中	四八五	
法	三九	小笠原島地方費ノ件	中	二〇五	
法	四三	市町村會議員選舉規則	中	一一〇	
法	四四	官吏恩給法	上	三五五	
法	四四	官吏遺族扶助法	上	三六六	
法	四八	行政裁判法	下	七八五	
法	五七	會計法補則	下	七	
法	七一	軌道條例	中	五五六	
法	七五	預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件	下	一〇四	
法	七七	市町村名及市役所町村役場ノ位置變更ニ關スル法	中	一一一	

編年目次

一三





訓	五二八	黃燐製摺附木製造取締條項	中下	一〇六〇
省	文部省	一枚摺略曆出版ニ關スル規定	中下	八〇一
法	明治二十四年	法律		
勅	勅令	地租徵收期限	下	一六七
勅	勅令	土木工事起業者保證金ノ件	中上	五七五
勅	勅令	判任官俸給令	上	二二七
勅	勅令	北海道廳ニ於テ殖産獎勵ニ要スル種畜貸渡隨意契約ノ件	下	三三
勅	勅令	官制及俸給令改正ノ際俸給支給方	上	二六三
勅	勅令	郡區長特別任用ノ件	上	三〇三
閣	内閣	行政上ノ處分ニ因リ恩給扶助料ノ權利ニ關スル恩給局裁決手續	上	三七四
省	内務省	郡歲入歳出豫算調製式	中上	二三七
省	省	刑死者ノ墓標寫眞等ニ關スル取締方	中下	七〇九
省	省	府縣歲入歳出豫算調製式	中上	一六二

訓	二二	府縣鄉村社神官奉務規則	下	四四一
訓	一四	官有土地水面ニ關スル處分委任ノ件	中上	五七一
訓	一五	警察禮式	上	四四五
訓	一七	官國幣社神職奉務規則	下	四二九
訓	二一	巡查採用規則	上	三〇八
訓	四六二	堤塘道路竝木敷ノ使用及收益ニ關スル件	中上	五七一
訓	四六四	市町村ニ於テ維持保存スル公園地内使用及使用料等取扱方	中上	一一四
訓	一〇六三	社寺總代人ニ關スル心得方	下	四一七
告	行政裁判所	行政訴答書書式	下	七九三
勅	明治二十五年	勅令		
勅	勅令	府縣立師範學校長俸給竝公立學校職員退隱料及遺族扶助料	下	七四
勅	勅令	法納金收入規則	中下	六四九
勅	勅令	豫戒令		
勅	勅令	市町村立小學校教員退隱料等ノ支給ニ關スル在職年數算定方	上	四〇〇
勅	勅令	官吏療治料給與ノ件	上	四三五
勅	勅令	高等官官等俸給令	上	二二一

閣	内閣	六	各官廳執務時間	上	三三九
訓	内務省	三四八	市町村行政事務監督事項要領	中上	一一四
訓		三四九	市町村巡視規程概則	中	一一七
訓		三五〇	市町村事務報告例概則	中上	一一九
省	大藏省	一一	文官俸給支給細則	上	二六一
省	文部省	一	公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則	上	四一三
省		二	市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則	上	四〇一
法	明治二十六年法律	一五	出版法	中	七九五
勅	勅令	七	備員俸給及備員其他ニ給スル諸手当支給方	上	二六四
勅		三三	中學校高等女學校實業學校設置ノ爲町村學校組合ヲ設クルノ件	下	六五九
勅		五一	府縣稅地方稅市町村稅又ハ水利組合費ヲ以テ施行スヘキ工	下	

勅	七〇	事ニ關聯スル政府工事ニ係ル隨意契約ノ件	下	三三	
勅	一二二	各官廳管理ノ政府所有及保管有價證券寄託方	下	一一〇	
勅	一二八	各省官制通則	上	一一八	
勅	一八二	臨時建築職員ノ件	上	一四二	
勅	一八六	警視廳北海道廳府縣及監獄判任官俸給額ニ關スル件	上	二二九	
勅	一九〇	文官試補及見習規程	上	二九五	
勅	一九六	島司特別任用ノ件	上	三〇二	
勅	一九七	月俸十五圓未滿ノ判任官特別任用ノ件	上	三〇六	
勅	一九八	文官試驗規則	上	三二三	
勅	一九九	官吏ノ勤績ニ關スル件	上	三二五	
勅	二二八	地方官廳ノ發スル命令ノ公布式	上	一二四	
勅	二六二	官有建物等ヲ府縣郡市町村公共組合ニ賣渡貨渡スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件	下	四〇二	
勅	二六二	政府ノ債務ニ對シ差押命令ヲ受クル場合會計上ノ規程	下	六二	
省	内務省	一	衛生試驗所ノ印紙ヲ貼付シタル藥品ノ外衛生局衛生試驗所ノ保證又ハ試驗濟ナル文字ヲ記入禁止並試驗成績書記載方	中	一〇〇六
訓		二七	支出計算書及證憑書類送附ノ件	下	四二
訓		二二	市町村内地ノ字名改稱變更ニ關スル規程	中上	一一三

省	大藏省	一九	預金取扱規程	下	一〇一
省	明治二十七年勅令	二〇	保管物取扱規程	下	一〇六
勅令	六	神官神職服制	上	四五三	
勅令	一五	消防組規則	中下	七二〇	
勅令	二二	府縣社以下神社ノ神職ニ關スル件	下	四四〇	
勅令	五四	文官試験委員官制	上	二二八	
勅令	五七	貴族院多額納稅者議員補缺選舉ニ關スル件	上	一〇九	
閣	一	褒章條例取扱手續	中上	五八四	
訓	內務省	四	神佛各宗派教師僧侶懲戒處分届出方	下	四九八
省	大藏省	二	政府ノ差押ヘラレタル債務額ノ仕拂停止仕拂執行及供託ニ關スル手續	下	六四
明治二十八年法律					

法	一三	古物商取締法	中下	六七八	
法	一四	質屋取締法	中下	六八三	
法	二八	通貨及證券模造取締法	中下	七八九	
勅令	五七	中央衛生會官制	上	一五三	
勅令	七一	傳染病豫防救治ニ從事スル官吏准官吏及傭員ニ手當支給ノ件	上	二六〇	
勅令	一二四	秘書官任用ノ件	上	二九六	
勅令	一二六	北海道ニ徵兵令ヲ施行スルノ件	下	五五〇	
省	內務省	八	古物商取締法細則	中下	六八一
省	九	質屋取締法細則	中下	六八七	
訓	四	市町村ニ設置スヘキ避病院設備標準	中下	八八八	
訓	一〇	廳府縣臨時檢疫官記章	上	四六二	
訓	二四〇	民有境内地使用及管理方	下	四二三	
省	陸軍省	二二	陸軍准士官下士文官採用細則	上	二九一
明治二十九年法律					
法	一三	公立學校職員退隱料等ニ關スル法	上	四一九	

法	二七	登録税法	下	一七〇
法	三三	營業税法	下	二〇六
法	三六	官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則	上	三七二
法	六〇	獸疫豫防法	中	九三一
法	七一	河川法	中上	四九二
勅令	五	市町村立小學校授業料ニ關スル件	下	七一四
勅	一一二	徵兵事務條例	下	五五四
勅	一四八	應府縣巡查定員	上	一七四
勅	一五一	古社寺保存會會長委員及臨時委員ニ旅費支給ニ關スル件	上	二七九
勅	二〇七	臺灣總督府奏任文官他官廳ニ轉任又ハ再任ノ場合官等ニ關スル件	上	二三四
勅	二三〇	二十九年勅令第二百二十九號ニ依リ増給任用並初任ノ臺灣總督府判任文官他官廳ニ轉任又ハ再任スルトキノ俸給ニ關スル件	上	二四〇
勅	二三五	河川ニ關スル行政監督ノ件	中上	五〇七
勅	二三六	河川法施行規程	中上	五〇四
勅	二六八	工事ニ要スル機械器具鐵軌車輛船舶建物及其附屬物其他材料素品ニ關スル隨意契約ノ件	下	三三

勅	二六九	營業税法施行規則	下	二一六
勅	二七九	東京市區改正委員會組織權限	上	一五六
勅	三三一	河川臺帳ニ關スル件	中上	五一〇
勅	三七一	神宮司廳官制	上	一六二
勅	三七三	痘苗製造ニ要スル積牛購入隨意契約ノ件	下	三四
勅	三七四	衛生試驗所技手ヲ衛生試驗所書記ニ任用スルノ件	上	二九七
内閣	二	官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則施行規則	上	三七三
内務省	三	沖繩縣區會ノ會議及傍聽ノ紀律並取締ニ關スル規則	中上	四四八
省	三	河川臺帳ニ關スル細則	中上	五一二
省	一一	巡查服裝規則	上	四五八
省	一一	沖繩縣區制ノ直接税間接税ノ類別	中上	四四八
省	三〇	徵兵事務條例施行細則	下	五六七
省	一〇	陸海軍兵籍ニ編入スル學生生徒トナリ又ハ之ヲ免セラレタル者届出方	下	五八九
省	一六			

編年目次

明治三十年  
法律

勅	二五八	沖繩縣及東京府管下小笠原島ニ徴兵令ヲ施行	下	五五〇
勅	二六三	警察署警察分署ニ拘禁又ハ留置セラルル者ノ食糧ニ關スル件	中	七八四
勅	三三三	内國旅費規則	上	二七五
勅	三三九	巡査給與品及貸與品規則	上	二七一
勅	三七七	河川法第四十八條ニ依レル命令ノ件	中上	五二六
勅	三八二	砂防法施行規程	中上	五四〇
勅	三九五	北海道廳支廳ノ名稱位置及管轄區域	上	一八四
勅	三九六	北海道廳支廳長特別任用ノ件	上	三〇一
勅	四〇六	古社寺保存會規則	上	一六〇
勅	四一五	囚人及刑事被告人押送規則	中	七六三
勅	四四六	古社寺保存法施行ニ關スル件	下	五一五
省	二	内務省		
省	三	藥品ノ封緘並藥品飲食物等ノ検査營業者取締ノ件	中	一〇〇七
省	四	町村ノ廢置分合ニ關スル件	中上	一一一
省	一	阿片法施行規則	中	一〇一二
省	一	傳染病豫防法施行規則	中	八六八
省	一	清潔方法消毒方法	中	八七二
省	一五	檢疫委員設置規則	中	八八四

法	五	鹿兒島縣下大島郡川邊郡各島地租徵收期限	下	一六七
法	二一	國稅徵收法	下	二二七
法	二七	阿片法	中	一〇一〇
法	二九	砂防法	中上	五三二
法	三六	傳染病豫防法	中	八六一
法	三七	國庫ヨリ補助スル公共團體ノ事業ニ關スル法	中上	四八〇
法	四九	古社寺保存法	下	五〇九
勅令	二	市町村立小學校教員俸給ニ關スル件	下	六五六
勅令	一五	工事ノ爲メ買収又ハ收用シタル土地貸付ノ件	下	四〇八
勅令	一〇二	北海道廳森林監守規程	上	一八六
勅令	一〇三	造神宮主事特別任用ニ關スル件	上	二九六
勅令	二三三	北海道廳ノ事業ニ要スル經費豫算内ニ於テ事業手ヲ置クノ件	上	一八五
勅令	一五八	北海道區制	中上	三〇〇
勅令	一五九	北海道一級町村制	中上	三三六
勅令	一九五	市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ關スル件	下	二四四
勅令	一九六	祕書官官等ノ初級及階級ニ關スル件	上	二三二
勅令	二四六	北海道廳巡査ニ手當支給ノ件	上	二七一

省	一八	傳染病豫防法第二十四條補助ニ關スル件	中下	八八七
省	一九	汽車檢疫規則	中下	八七九
省	二〇	船舶檢疫規則	中下	八八一
省	二三	警察署警察分署ニ拘禁留置者ノ食糧金額	中下	七八四
省	二六	醫療用藥品ノ檢査證明ヲ業務トスル者取締ノ件	中下	一〇〇七
省	二七	警察官吏其他内國旅費概則	上	二七九
省	二八	收入印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料代價ノ種目及納付方	下	九〇
省	三二	徵兵旅費規則	下	五五二
省	三五	古社寺保存法施行細則	下	五一
省	三七	囚人及刑事被告人押送細則	中下	七六五
省	一五	巡查教習概則	上	三一九
省	一六	巡查配置及勤務概則	上	三四二
省	二〇	學校職員及市町村吏員等國庫ノ用務ヲ以テ旅行セシムルト キ旅費支給ノ件	上	二八五
省	一七二	軌道條例ニ依ラサル軌道布設出願取扱方	中上	五六五
省	三〇	賠償金ヲ交付スヘキ阿片ノ莫見比涅含量及其賠償金額並賣 下價格	中下	一〇一四
省	一〇	國稅徵收法施行細則	下	二四〇

訓	二三	農商務省	恩賞諸祿仕拂取扱順序	下	七一
省	一	農商務省	獸疫豫防法施行細則	中下	九三六
省	五	拓殖務省	傳染病豫防委員及檢疫委員設置規程	中下	八八五
省	八	拓殖務省	北海道區制及北海道一級町村制二級町村制ノ議員選舉員數 及標準人口	中上	三三一
法	一〇	法律	明治三十一年	上	一一五
法	二一	法律	外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲スニ關スル法	下	七三五
勅	二	勅令	公立學校ニ學校醫ヲ置クノ件	下	七三三
勅	一五	勅令	砂防ニ關スル行政監督ノ件	中上	五四二
勅	三七	勅令	北海道殖民地ニ於ケル道路橋梁排水工事請負隨意契約ノ件	下	三四
勅	一〇二	勅令	造神宮使廳官制	上	一四八
勅	一三九	勅令	開港港則	中下	七二三
勅	一八四	勅令	三十年法律第三十七號ノ施行ニ關スル件	中上	四八一
勅	一八九	勅令	神宮衛士長衛士副長衛士ニ關スル件	上	一六三

勅	二一〇	東京市京都市大阪市ノ區ニ關スル件	中上	一〇七
勅	二五九	内務省官制附内務省分課規程	上	一三三
勅	二六八	臨時檢疫職員ノ件	上	一四二
勅	三二二	技術官俸給令	上	二三五
勅	三二七	通信手航路標識看守俸給並三等郵便局長手當ノ件	上	二四五
勅	三五八	千島國諸島ニ在勤スル北海道廳支廳長屬技手警部巡查森林 監守事業手及戸長筆生雇員ニ手當給與ノ件	上	二五〇
閣	五	官印製式	上	四六三
省	四	内務省		
省	六	北海道廳沖繩縣ニ於ケル傳染病豫防法第二十四條ノ補助ニ 關スル規程制定ノ件	中	八八八
省	八	神社、寺院、佛堂ニ於ケル參拜料觀覽料徵收並寄附金及負債 募集取締ノ件	下	四三三
訓	二六	北海道移住民渡航船舶取締規則	下	七四七
訓	二八	河川臺帳縦覽及認可ニ關スル件	中上	五一四
論	告	北海道移住民三百名以上乗船ノトキ警察官吏附添方 御肖像ニ關スル諭告	中下	七四九
	大藏省		中下	八〇〇

訓	二八	市町村徵收ノ國稅金ニ對スル交付金交付手續	下	二四四
省	六	文部省		
省	七	學校醫職務規程	下	七二五
省	七	學校醫ノ資格	下	七二四
省	一六	遞信省		
	明治三十二年	開港港則施行細則	中	七三〇
法	一五	法律		
法	一七	供託法	下	一一一
法	一九	所得稅法	下	一九二
法	二七	海港檢疫法	中下	九〇一
法	二七	北海道舊土人保護法	中上	六二〇
法	三九	著作權法	中	八一〇
法	五四	印紙稅法	下	二二一
法	六四	府縣制	中上	一三〇
法	六五	郡制	中上	二一〇
法	六六	國籍法	下	七三一
法	七七	罹災救助基金法	中上	六一〇
法	八〇	教育基金特別會計法	下	八五

勅	一六〇	災害土木費國庫補助規定	中上	二〇六
勅	一九六	府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料	上	四二二
勅	二〇一	法ニ於ケル學校職員ノ資格及在職年數算定ノ件	上	四二一
勅	二〇五	公立學校職員退隱料等ニ關スル件	下	一八九
勅	二二七	登錄税法施行規則	中上	一八二
勅	二二七	島嶼ノ府縣會議員選舉ニ關スル件	中上	一八七
勅	二二八	島嶼ニ關スル府縣行政ノ特例ニ關スル件	中上	二五七
勅	二五七	視學俸給ノ件	上	三〇四
勅	二六〇	視學官及視學特別任用令	中上	一九一
勅	二七六	府縣稅家屋稅ニ關スル件	中上	六〇六
勅	二七七	行旅病人死亡人等ノ引取及費用辨償ニ關スル件	中上	一八四
勅	二八五	市部會郡部會等ノ特例ニ關スル件	中上	四六〇
勅	二九四	北海道廳森林監守服制	上	二五三
勅	二九五	北海道廳森林監守給與品及貸與品規則	中上	八一八
勅	三一四	著作權法施行ニ關スル件	中上	一五八
勅	三一五	府縣郡行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セサル事項	中上	一九一
勅	三一六	府縣費ノ分賦及不均一賦課ニ關スル件	中上	一〇五三
勅	三四五	產婆規則	中上	
勅	三五二	條約若ハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人ノ居住及	中上	

法	八一	災害準備基金特別會計法	下	八四
法	八五	國有林野法	下	三六九
法	八七	遺失物法	中	六八八
法	九三	行旅病人及行旅死亡人取扱法	中上	五九九
法	九五	水難救護法	中上	六二三
法	一〇六	銃砲火藥類取締法	中下	六六〇
法	一〇九	北海道區町村會議員總代人及沖繩縣區會議員等選舉ノ罰則ニ關スル法	中上	三三五
勅令	三	警視特別任用ニ關スル件	上	三〇三
勅令	六一	文官任用令	上	二八七
勅令	六二	文官分限令	上	三二三
勅令	六三	文官懲戒令	上	三三三
勅令	六五	阿片賣下代價ハ收入印紙ヲ以テ納付セシム	中	一〇一五
勅令	七八	所得稅法施行規則	下	二〇一
勅令	九四	傳染病研究所職員官等俸給ノ件	上	二四一
勅令	一一一	地租條例施行規則	下	一五六
勅令	一二二	河川法第三十二條第二項ノ費用補助ニ關スル件	中上	五一七
勅令	一二八	奏任ト爲スコトヲ得ル諸官ニ關スル件	上	二三一



勅	三六一	營業等ニ關スル件	中	七〇三
勅	三六四	社寺保管林規則	下	三八六
勅	三六六	國有林野委託規則	下	三八八
勅	三七四	銃砲火藥類取締法施行規則	中	六六三
勅	三九一	砂防法第十一條ノ地租其他ノ公課減免ニ關スル件	下	一六四
勅	三九八	河川敷地ノ公用ヲ廢シタル土地處分ニ關スル件	中	五二二
勅	四〇二	陸軍召集條例	上	六一一
勅	四〇四	警察賞與規則	中	五九一
勅	四二四	河川法第五條ニ依レル命令ノ件	上	五一六
勅	四二九	遺失物法ニ依リ埋藏物ヲ宮内省ニ讓渡ストキ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件	中	六九三
勅	四三四	圖書館令	下	七二七
勅	四三五	傳染病豫防ノ爲物件輸入禁止ニ關スル件	中	八九〇
勅	四三七	教育基金令	下	七二〇
勅	四四八	海水ニ觸接スル工事及水道工事ニ要スル「セメント」ノ購入隨意契約ノ件	上	三五
勅	四四八	定時間外ニ服業シタル技手ニ日額給與ノ件	上	二二一
勅	四五六	公立學校職員ト教官其他教育事務ニ従事スル文官トノ間ノ轉任ニ關スル件	上	二九五

勅	四五七	會計検査院事務章程	下	一一一
七月十二日		文學的及美術的著作物保護萬國同盟創設ニ關スル條約及追加規定並解釋宣言書	中	八二二
内務省	一	千島國諸島ニ在勤スル北海道廳支廳長以下手當給與細則	上	二五二
省	四	遺失物法施行細則	中	六九二
省	五	北海道舊土人保護法施行規則	中	六二二
省	六	府縣制及郡制ニ依リ定ムヘキ豫算調製式ニ關スル規定ノ件	中	一六二
省	九	災害土木費國庫補助規定施行細則	中	二〇六
省	一〇	社團財團ヲ法人ト爲スニ付申請方	下	八〇二
省	一一	認可ヲ經ルヲ要セサル砂防工事ニ關スル件	中	五四三
省	一三	河川法同施行規程等ニ依ル告示ノ方法	中	五〇六
省	一六	河川法第九條ニ依レル命令	中	五一七
省	一九	府縣會議員選舉投票ニ關スル件	中	一八一
省	二〇	郡會議員選舉ニ關スル件	中	二四三
省	二二	河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事費用ニ對スル補助手續	中	五一九
省	二二	河川法第五十條ニ依レル命令ノ件	中	五二八
省	二三	行旅病人行旅死亡人及同伴者ノ救護並取扱方	中	六〇二

省	二四	外國人タル行旅病人行旅死亡人及同伴者ノ救護並取扱ニ關スル特例	中上	六〇六
省	二五	市部會郡部會市部參事會郡部參事會ヲ設クヘキ府縣	中上	一八六
省	二六	檢印申請及届出等ニ關スル件	中	八二〇
省	二七	著作權者不明ノ著作物ニ關スル件	中	八二一
省	二八	著作權登錄ニ關スル規定	中	八二一
省	二九	府縣ニ於テ市町村ニ分賦シ得ヘキ費用ノ限度	中上	一九二
省	三一	府縣會議員郡會議員ノ選舉權等ニ關スル納稅届出方	中	一八一
省	三二	宿泊届其他ノ件	中	七〇五
省	三六	河川法第四十條ニ依レル補償手續	中上	五二〇
省	三九	砂防法第三十三條ニ依レル命令	中上	五四四
省	四一	宗教宣布者及堂宇會堂說教所ノ類設立廢止等ノ場合届出方	下	四九八
省	四二	條約若ハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人ノ居住及營業等ニ關スル件施行細則	中	七〇四
省	四三	銃砲火藥類取締法施行細則	中	六七〇
省	四五	北海道區制施行ニ付必要事項	中上	三三三
省	四七	產婆試驗規則	中	一〇五七
省	四八	產婆名簿登錄規則	中	一〇五六
省	四九	北海道區制及北海道一級町村制ニ依ル會議及傍聽ノ紀律並	中	

省	五〇	取締ニ關スル規則	中上	三三二
省	五一	北海道區公民名譽職ヲ擔任セス又ハ執行セサル者處分規則	中上	三三二
省	五二	外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲サントスル者及歸化國籍回復出願方	下	七三六
省	五三	警察賞與規則施行細則	中上	五九二
省	五四	神宮衛士長衛士副長衛士服務規則	上	一六四
省	五九	ベスト豫防ノ爲輸入禁止ノ物件	中	八九〇
省	一九	工場ニ於ケル負傷届出並警察官吏臨檢及職工數患者數報告ノ件	中	一〇六一
訓	二一	北海道廳森林監守服裝帶劍並禮式規定	上	四六〇
訓	二五	登錄事項通知及保存方	中	七〇七
訓	二七	水上警察旗製式	上	四六一
訓	二九	船舶消毒ニ關スル件	中	九一一
訓	三二	貸座敷免許地新設移轉擴張ノ必要ヲ生シタルトキ稟請方	中	七一九
訓	三四	火藥類制限外買入並貯藏特許證ノ書替交付方	中	六七三
告	六九	府縣制郡制ノ直接稅ノ種類	中上	一八〇
告	七三	著作權ニ關スル登錄簿閱覽日時	中	八二二
告	八一	文學的及美術的著作物保護萬國同盟國等	中	八四六
告	九一	銃砲商火藥商定員	中	六七三

告	九六	北海道區制及北海道一二級町村制ノ直接税間接税ノ類別	中	三三一
告	一〇三	日没後檢疫ヲ受ケントスル船舶汽笛發聲方	中	九二二
省	六	供託物取扱規程	下	一一二
省	三二	罹災救助基金法施行手續	中上	六一四
訓	三二	免租地ヲ有租地ト爲スヲ許可シタルトキ通知方	下	一六二
訓	六五	罹災救助基金年度始現在高表進達方	中上	六一四
省	二九	陸軍召集條例施行細則	下	六二五
省	陸、海軍省	銃砲火藥類取締法ノ軍用銃砲ノ種類	中	六七三
省	文部省	公立學校職員退隱料等ニ關スル施行規程	上	四二二
省	農務省	國有林野法施行規則	下	三七三
省	逓信省	水難救護法施行細則	中上	六三一
省	三三	水難救護法取扱手續	中上	六三四
訓	六	會計検査院		

達	一	支出證明規程	下	四三
達	二	仕拂證明規程	下	四八
告	一	行政訴訟豫納金手續	下	七九六
法律	明治三十三年			
法	一五	飲食物其他ノ物品取締ニ關スル法	中	九五
法	二九	土地收用法	下	二五一
法	三〇	傳染病豫防救治ニ従事スル者ノ手當金ニ關スル法	上	四三六
法	三一	汚物掃除法	中	九四五
法	三二	下水道法	中上	四八七
法	三三	未成年者喫煙禁止法	中	七八八
法	三四	産業組合法	中上	二七三
法	三六	治安警察法	中	六五二
法	三七	感化法	中上	六三八
法	三八	精神病者監護法	中	六九三
法	五二	法人ニ於テ租税及煙草專賣ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル法	下	二四七
法	六三	市町村立小學校教育費國庫補助法	下	七一五

法	七三	衆議院議員選舉法	上	六八
法	七五	臺灣又ハ樺太ニ在勤スル官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法	上	三七五
法	七七	臺灣ニ在勤スル地方稅支辨ノ俸給ヲ受クル文官判任以上ノ學校職員退隱料及遺族扶助料ニ關スル法	上	四二三
法	八四	行政執行法	中	六五七
勅令	四七	國稅徵收法ニ依ル公共團體指定	下	二四三
勅令	七五	臨時海港檢疫所官制	上	二〇五
勅令	八一	府縣稅徵收ニ關スル件	中上	一九三
勅令	九〇	神宮司廳職員官等俸給	上	二六五
勅令	九七	廳府縣ニ臨時檢疫官ヲ置クノ件	上	二〇六
勅令	九八	東京市京都市大阪市ヲ除クノ外人口二十萬以上ノ市ノ區ニ關スル件	中上	一〇九
勅令	九九	土地收用法施行令	下	二六七
勅令	一〇〇	土地收用法第六條ニ基ツキテ發スル命令ノ件	下	二七〇
勅令	一〇一	土地收用法第四十六條ニ依ル合同收用審査會ニ關スル件	下	二七三
勅令	一〇二	土地收用法第六十九條ニ依リテ發スル命令ノ件	下	二七四
勅令	一〇三	土地收用法第八十五條第三項ニ基ツキテ發スル命令ノ件	下	二七五

勅	一二三	市町村行政ニ關シ主務大臣許可ノ職權ヲ府縣知事ニ委任ノ件	中上	九七
勅	一三二	陸海軍准士官以下ニシテ恩給ヲ受クル者文官判任官以上ニ任セラレタル場合ニ於ケル俸給ノ件	上	二六〇
勅	一三三	市町村立小學校教員加俸令	下	七一六
勅	一三六	寄附財産ヲ以テ設置スル官立公立學校ニ關スル件	下	六六〇
勅	一四一	傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ療治料ニ關スル件	上	四三九
勅	一四八	河川法第五十八條ニ依レル罰則ノ件	中上	五三〇
勅	二二二	警視廳高等官俸給令	上	二四六
勅	二四八	府縣出納吏及郡出納吏ノ身元保證並賠償責任ニ關スル件	中上	一八八
勅	二五三	行政執行法施行令	中	六五九
勅	二五五	北海道ニ於テ農業者ノ設立スル產業組合ニ關スル件	中上	二九六
勅	二七三	准士官以下ニシテ恩給ヲ受クル者文官判任以上ニ任セラレタル場合ニ於ケル諸給與及納金計算方	上	二六三
勅	二七九	北海道一二級町村制實施ノ際國有土地建物物件附與ニ關スル件	中上	三六九
勅	二八〇	政府ノ工事又ハ物件ノ購入ニ關スル指名競争ノ件	下	三五
勅	二八二	精神病者監護ニ關スル件	中	七〇〇
勅	三〇〇	河川法第四十七條ニ依レル命令ノ件	中上	五二四

勅	三二九	救恤又ハ學藝技術獎勵ノ目的ヲ有スル寄附金ノ保管出納ニ關スル件	下	一一〇
勅	三四四	小學校令	下	六六一
勅	三七四	神部署官制	上	一六六
勅	三七五	神部署職員俸給	上	二六五
勅	四〇九	相續人曠缺ノ場合ニ於テ國庫ニ歸屬シタル財産ノ引渡ニ關スル件	下	四〇九
省	內務省	汚物掃除法施行規則	中	九四七
省	五	掃除監視吏員組織權限	中	九五〇
省	六	府縣制郡制ニ依ル費用流用並財務ニ關スル件	中	一五九
省	七	北海道區制施行ニ付必要事項ニ關スル件	中	三三五
省	八	飲食物其他ノ物品取締ニ關スル法律施行方ニ關スル件	中	九五三
省	一〇	府縣郡ヨリ給料給與ヲ受クル吏員職員ニ對シ退隱料退職給與金遺族扶助料ノ支給ニ關スル規定ヲ設クルノ件	中	一八九
省	一四	牛乳營業取締規則	中	九五四
省	一五	有害性著色料取締規則	中	九五九
省	一七	形像取締規則	中	七〇八
省	一八	牛乳ノ比重及脂肪量ノ檢定方法	中	九五七
省	二〇		中	

省	二二	北海道一級町村制實施ニ付事務取扱方	中	三六九
省	二五	營業浴場ノ風紀取締ノ件	中	七一六
省	二七	北海道一級町村公民名譽職ヲ擔任セス又ハ執行セサル者處分方	中	三六九
省	二八	河川法第四十三條第二項ニ依レル命令	中	五二〇
省	三〇	清涼飲料水營業取締規則	中	九六三
省	三四	工事又ハ物品供給ノ競争ニ加入セントスル者資格證明方	下	三一
省	三五	精神病者監護法施行規則	中	六九八
省	三七	冰雪營業取締規則	中	九六九
省	三九	宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル法人ノ設立等ニ關スル規程	下	五〇一
省	四一	死亡診斷書死體檢案書並死産證書死胎檢案書記載事項ノ件	中	一〇四五
省	四四	娼妓取締規則	中	七二六
省	四六	牛乳中ニ移行スヘキ毒藥劇藥處方ニ關スル件	中	九五八
省	五〇	飲食物用器具取締規則	中	九七三
省	三	掃除監視吏員服制	上	四六一
訓	六	仕拂命令集合仕拂命令發付等ニ關スル取扱手續	下	五七
訓	七	諸收入收納取扱規程	下	三八
訓	九	土地收用法ニ關スル件	下	二七五

編年目次

訓	一〇	內務省所管歳入徴收官交代ノトキ取扱方	下	五三
訓	一四	水上警察禮式	上	四五〇
訓	一五	巡查點檢規則	上	三四四
訓	一六	消防組點檢規則	中	七二二
訓	一八	內務省主營ニ屬スル國有地ヲ整理地區ニ編入ノ申請ヲ地方廳限リ許否ノ件	下	三三〇
訓	二〇	河川改修工事ヲ施行スル爲メ官有地ヲ要スルトキ地種組換方等處分方	中上	五三〇
訓	二一	死産ニ關シ埋火葬認許證下付方	中	七八二
訓	二二	內務省所管出納官吏保管ノ現金亡失等ノトキ報告ノ件	下	五四
訓	二三	國庫補助ノ砂防工事竣功認可ノ件	中上	五四五
訓	二八	死亡診斷書死體(胎)檢案書死産證書様式並記載方	中	一〇四六
告	三〇	內務省及所管廳物品取扱規程	下	七八
大藏省	四八	警視ヲ以テ署長ニ補スル警察署指定	上	一九八
省	一九	准士官以下ニシテ恩給ヲ受クル者文官判任以上ニ任セラレタル場合ニ於ケル俸給支給方	上	二六四
訓	四五	歳入徴收官交代ノトキ取扱方	下	五四
文部省				

省	一四	小學校令施行規則	下	六七四
達	三	會計検査院		
法律	三	物品出納計算書提出期限	下	八四
明治三十四年				
法	二	北海道會法	中上	三八七
法	三	北海道地方費法	中上	四〇〇
法	二七	水害地方田畑地租免除ニ關スル法	下	一六五
法	三〇	鐵下年期新開免租年期地價据置年期ノ延長ニ關スル法	下	一六三
法	三一	開墾地開拓地新開地年期繼續ニ關スル法	下	一六三
法	三三	狩獵法	中	七三二
法	三四	漁業法	中	七四二
法	三五	畜牛結核病豫防法	中	九一三
法	三八	巡查看守退隱料及遺族扶助料法	上	三七六
法	三九	永代借地權ニ關スル法	下	二七七
勅令	八	政府直接従事ノ事業ニ要スル職工人夫雇傭ノ請負隨意契約ノ件	下	三六
勅	一七	北海道會議員選舉令	中上	三九一

勅	一八	北海道地方費令	中上	四〇四
勅	二一	北海道水産稅稅區令	中上	四〇三
勅	六四	東京府下及沖繩縣下ノ島嶼在勤者ニ手當給與ノ件	上	二五八
勅	一三九	獸疫及畜牛結核病豫防ニ關スル費用負擔區分	中下	九四三
勅	一四八	巡查看守退隱料及遺族扶助料法施行令	上	三八二
勅	一四九	巡查看守療治料給助料及弔祭料給與令	上	四三九
勅	一七八	永代借地權ニ關スル件	下	二八〇
勅	一七九	政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ヲ取得シタル場合ニ關スル件	下	二八三
勅	一八六	衆議院議員選舉法施行令	上	八八
勅	一九七	市町村ノ廢置分合等ニ依リ消滅スヘキ學校幼稚園及兒童教育事務委託ノ存続ニ關スル件	下	六五八
閣	一	内閣恩給局長ノ管掌ニ屬スル巡查看守退隱料及遺族扶助料取扱規程	上	三八三
省	五	北海道會議員選舉權ニ關スル納稅屆出方	中上	四〇〇
省	六	北海道地方費令ニ依ル豫算調製式並費目流用其他財務ニ關スル件	中上	四〇八

省	八	島嶼在勤者月手當給與細則	上	二五八
省	一三	北海道ニ於テ農業者ノ設立スル産業組合ニ關スル施行規程	中上	二九七
省	一六	醫籍藥劑師名簿編成並加除訂正規程	中下	一〇三〇
省	一七	衛生試驗所試驗手数料ニ關スル規定	中下	一〇六五
省	二一	下水道法施行規則	中上	四八九
省	二二	地方長官ノ主管ニ屬スル巡查看守退隱料及遺族扶助料取扱規程	上	三八七
省	二三	感化法施行規則	中上	六四〇
省	二四	政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ヲ取得シ又ハ其ノ土地ノ所有權ヲ取得シタルトキ通知ノ件	下	二八四
省	二七	衆議院議員選舉法ニ依リ市町村外ニ於テ納ムル直接國稅證明ニ關スル件	上	九五
省	二八	衆議院議員選舉法第二十七條ニ依リ更ニ調製スル選舉人名簿ニ關スル件	上	九六
省	二九	衆議院議員選舉人名簿投票用紙封筒及投票函ノ様式	上	九六
省	三〇	清涼飲料水營業取締規則有害性著色料取締規則飲食物及布片中砒素及錫ノ試驗方法	中下	九六六
省	三一	人工甘味質取締規則	中下	九七一

省	訓	訓	訓	訓	訓	訓	告	訓	省	達	達	
三九	七	八	一〇	一一	一二	一三	一四	一七	一八	二〇	二六	
「ベスト」兩取扱収縮規則	精神病者タル在監人放免ニ關スル取扱手續	產婆試驗委員設置規程	內務省所管検査官吏等ニ關スル取扱方	下水道築造認可申請方	巡查看守退隱料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者ヲ判任官待遇以上ノ官職ニ任用ノトキ通報ノ件	衆議院議員選舉法及同施行令ノ事務及書式等取扱方	軌道條例取扱方心得	國有林野法ニ依リ編入スル社寺境内地種目組換取扱方	菊御紋章並皇室ニ關スル文字濫用取締ノ件	北海道會法ノ直接國稅ノ種類	大藏省	農商務省
一〇一五	七〇二	一〇五九	五三	四九〇	二九四	九三	五五七	三九〇	七〇三	四〇〇	六一五	七三七
中	中	中	下	中	上	上	中	下	中	中	中	中
四六												
會計検査院	物品出納證明規程	租稅外歲入徵收額證明規程										
四	一	一										

府	法	法	法	法	法	法	法	勅	勅	勅	勅
四六	一一	一二	一三	二二	二九	四〇	五〇	五	二七	二八	三〇
臺灣總督府	警察署内ノ留置場ニ拘禁又ハ留置セラルル者ノ費用ニ關スル法	北海道土功組合法	課稅標準額及稅額計算ニ關スル法	沖繩縣及東京府管内伊豆七島ニ於ケル國稅徵收ニ關スル法	臺灣ニ在勤スル巡查看守陸軍監獄看守陸軍警手女監取締退隱料及遺族扶助料ニ關スル法	郡費分賦ノ件ニ關スル法	年齡計算ニ關スル法	各省所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ關スル件	官國幣社職制	官國幣社及神部署神職任用令	神宮司廳職員任用令
四二四	七八二	四一〇	二二五	二四五	三九一	二四三	八〇二	四〇八	四二七	四三六	三〇七
上	中	中	下	下	上	中	下	下	下	下	上
四七											
臺灣ニ在勤スル地方稅支辨ノ俸給ヲ受クル文官判任以上ノ學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則											
明治三十五年法律											

編年目次



省	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅
省	三二	三七	七四	七七	一三五	一三九	一六五	二〇五	二二二	二六八	二七五	二七七	一	三	四		
省	神宮大宮司及少宮司ノ初級及陸級並他官ニ轉任又ハ再任スル場合ノ官等ニ關スル件	北海道二級町村制	港務部高等官俸給令	港務部職員特別任用令	國稅徵收法施行規則	課稅標準額及稅額計算ニ關スル法律ニ依ル公共團體指定	東京市區改正條例ニ依リ特別稅指定	出納官吏身元保證金ニ關スル件	北海道土功組合法施行令	區町村會ニ於テ評決シタル區町村費及水利土功會ニ於テ評決シタル土木費並北海道一級町村制二級町村制ヲ施行セサル町村ノ公收入ノ意納督促手数料ニ關スル件	地租條例及國稅徵收法ヲ沖繩縣宮古郡八重山郡ニ施行	沖繩縣宮古郡八重山郡地租納期	官國幣社主典及宮掌ノ定員等ニ關スル件	府縣郡吏員服務紀律	府社縣社以下神社神職任用規則		
省	上	中上	上	上	下	下	中上	下	中上	中上	中上	中上	中上	中上	中上		
省	二二三	三七〇	二五六	三〇〇	二三五	二二六	五八二	五五	四一一	四一	一五六	一五五	一五六	四三四	一八九	四四二	

省	省	告	訓	訓	訓	訓	訓	省	省	省	省						
省	七	四	二	一八	一五	一四	一三	一六	一三	一二	九						
省	農商務省	司法省	陸軍省														
省	漁業法施行規則	監獄費ヨリ北海道地方費及府縣ニ償還スヘキ費額ノ件	出生年月日	徵兵令第二十五條ニ依リ届出ヘキ者及徵集セララルヘキ者ノ出生年月日	出納官吏身元保證金等ニ關スル取扱方	古社寺保存法ニ依リ指定セル特別保護建造物ニ係ル制札ノ件	場合ニ關スル件	警察官署ノ名稱並門標掲出方	土地收用法ニ依リ起業者ヨリ事業認定ノ申請ヲ爲シタル場合ニ關スル件	禮式準用	港務部及臨時海港檢疫所職員並船舶ニ警察禮式水上警察禮式準用	河川法第四條第二項ニ依ル特別ノ規定	不動產ノ登記ノ囑託ニ就キ官吏指定	神部署職員俸給支給規則	健全證書交付手續		
省	中	中	下	下	下	下	上	上	中上	下	上	中上	下	上	中上	中上	中上
省	七四八	七八三	五五一	五一六	五六一	二七六	一七四	四五三	四〇九	五一五	九二二	二六六	四〇九	五一五	二六六		

法	三	災害地地租延納ニ關スル法	下	一六九
勅令	二	警視廳ニ臨時防疫職員ヲ置クノ件	上	一七三
勅	九六	官有財産管理規則及官有地特別處分規則準用ニ關スル件	下	四〇二
勅	一〇五	北海道ノ區以外ノ地ニ衆議院議員選舉法施行ノ件	上	八八
勅	一三〇	神宮皇學館官制	上	一六七
勅	一三一	神宮皇學館職員官等俸給令	上	二六七
勅	一七八	神奈川縣ニ臨時防疫職員ヲ置クノ件	上	二〇七
勅	二七八	沖繩縣島尻郡國中頭郡國頭郡及那覇區首里區ニ地租條例及國稅徵收法施行	下	一五五
勅	二七九	沖繩縣島尻郡中頭郡國頭郡及那覇區首里區ノ地租納期	下	一六八
勅	二八三	勸業債券與業債券及貯蓄債券ヲ保證金ニ使用スルヲ得ルノ件	下	九八
勅	二八五	初級官等ノ制限ヲ受ケサル高等文官他ノ高等文官ト爲ル場合ノ官等ニ關スル件	上	二三三
省	二	官國幣社以下神社並寺院佛堂境內官有地木竹管理規則	下	四一九

省	五	痘苗及血清其他細菌學的豫防治療品製造取締規則	中	一〇一八
省	八	河川工事費ヨリ補助シタル土木工事竣功認可ニ關スル規定	中上	五一八
省	一〇	飲食物防腐劑取締規則	中	九七五
省	一一	清酒中「サリチール」酸試驗方法	中	九七七
省	一二	神社寺院佛堂境內地使用取締規則	下	四二一
省	四	古社寺保存法ニ依リ修理保存金ヲ下付シタルトキ其修理未了等ノ場合報告方	下	五一七
省	七	東京市ニ於ケル巡查配置及勤務方	上	三四四
省	一〇	官國幣社營繕ニ關スル規程	下	四六一
省	一一	官國幣社處務規則	下	四三〇
省	一二	北海道移住民汽車賃汽船賃割引券取扱方	下	七四六
省	一三	市區ニ於ケル死亡數及出生數報告表式	中下	一〇六二
省	五一	丁抹國加盟	中下	八四九
省	五九	爆發物貯庫規程	中下	六七四
省	一八	教育基金令施行規程	下	七二三
省	四	畜牛結核病豫防法施行規則	中下	九一六
省	九	畜牛結核病豫防法ニ依ル検査員執務規程	中下	九二四

告	一六九	畜牛結核病豫防心得	中	九二八
明治三十七年				
法律	三	非常特別税法	下	一二七
法	一二	地租徵收ニ關スル法	下	一六五
法	一三	沖繩縣滯納舊租延納法	下	一七〇
四月十八日				
勅令	三三三	貴族院伯子男爵議員選舉員數	上	一一一
勅	三三三	戰時事變ノ際陸海軍ニ召集セラレタル巡查看守ニ休職ヲ命スル件	上	三二七
勅	五四	工事請負契約解除ニ關スル件	下	三八
勅	六三	島根縣隱岐國ニ於ケル町村ノ制度ニ關スル件	中上	四五二
勅	八四	陸軍一年志願兵條例	下	五九四
勅	八五	非常特別税法施行規則	下	一四四
勅	九四	下士兵卒家族救助令	中上	六〇八
勅	一一一	地方測候所技師技手及書記休職ノ件	上	三二六
勅	一九五	外國政府ニ聘用セラレタル官吏ニ關スル件	上	三二八
勅	二〇六	文官ニシテ陸海軍ニ召集セラレタル者ノ俸給支給ニ關スル	上	三二八

勅	二三七	官吏ノ待遇ヲ受クル在職者ニシテ外國政府ニ聘用セラレタルモノニ關スル件	上	二六一
省	一	肺結核豫防ニ關スル件	中	八九〇
省	三	下士兵卒家族救助令施行規則	中上	六〇九
省	一四	賣藥並藥品ヲ配伍シタル物品ニシテ賣藥ニ屬セサルモノノ收去ニ關スル件	中	九九〇
省	一五	有害性著色料取締規則第二條野菜果實類ノ貯藏品及昆布中銅ノ試験方法	中	九六一
告	六五	瑞典國加盟	中	八四九
告	七九	海外諸港及臺灣ヨリ宇品港ニ來ル船舶檢疫方	中	九一二
省	一三	陸軍一年志願兵條例施行細則	下	五九九
明治三十八年				
法律	二〇	國債證券價格計算ニ關スル法	下	九七
法	三七	北海道罹災救助基金法	中上	六一六
法	六六	外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造變造及模造ニ	中上	六一六

勅令	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	
關スル法	三四	八八	一三〇	一三九	一四〇	一四三	一四四	一四七	一五九	一八一	二〇一	二〇二	
租税其ノ他ノ歳入金ノ代用證券取扱ニ關スル件		傳染病研究所官制	俸給旅費等其他諸給與仕拂ノ際錢位未滿ノ端數切捨ニ關スル件	北海道廳官制	地方官官制	北海道廳高等官俸給令	地方高等官俸給令	警部消防士特別任用令	地租條例第四條第一項第一號及第二號ニ依ル公共團體及期間指定	血清痘苗「ツベルクリン」及治療液代價納付ニ關スル件	政府ニ於テ産業組合又ハ産業組合聯合會ヨリ物品ノ買入ヲ爲ストキ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件	政府ニ於テ建築工作其ノ他直接事業ニ要スル材料ニ關スル隨意契約ノ件	收入印紙ヲ以テ手数料罰金科料過料刑事追徵金訴訟費用及
	上	上	上	上	上	上	上	上	上	中	下	下	下
	七九〇	九二	一五一	八九	一七七	一八六	二四八	二五五	三〇四	一六一	一〇六四	三六	三七

勅	勅	省	省	省	省	省	省	省	省	訓	訓	訓	訓	訓	訓
勅	勅	省	省	省	省	省	省	省	省	訓	訓	訓	訓	訓	訓
二四三	二八二	二	四	一三	一六	二一	二二	二二	一	二	四	五	七	八	八
内務省	非訟事件費用ヲ納メシムルコトヲ得ルノ件	大阪府及兵庫縣ニ臨時防疫職員ヲ置クノ件	山口縣ニ臨時防疫職員ヲ置クノ件	明治三十八年法律第六十六號第十條ノ官沒ハ警察署長同分署長執行ノ件	認可ヲ經ルヲ要セサル河川工事ニ關スル件	警部消防士特別任用令ニ依ル考試規則	傳染病研究所痘苗血清類賣捌規則	傳染病豫防法第十九條ノ二ニ依ル手當金ニ關スル件	神佛ノ參拜其ノ他ノ代理周旋行爲取締ノ件	國幣社例祭ノ節供進スヘキ幣帛神饌料	巡查冬衣袴ノ地質並給與員數及使用期限	河川法施行ニ關シ認可ヲ經ルヲ要セサル件	河川道路港灣等ニ關シ稟伺處分スヘキ事項	河川法ニ依レル工作物ノ除却及占用許可ノ取消ヲ要スルトキ處分方	河川法ニ依レル工作物ノ除却及占用許可ノ取消ヲ要スルトキ通知方
	上	上	上	中	中	上	中	中	下	下	上	中	中	中	上
	九〇	二〇八	二〇九	七九二	五〇九	三一八	一〇六二	八八六	四二五	四五七	二七五	五一〇	五七四	五三一	五三一

訓	九	砂防法ニ依リ土地ノ指定ヲ必要ト認ムルトキ上申方	中上	五四六
訓	一〇	内務省土木出張所處務規程	上	一四五
告	五七	内務省土木出張所名稱及分掌區域	上	一四四
告	七四	地方官官制ニ依リ事務官四人ヲ置ク縣指定	上	一九四
告	九六	國債證券及利札ヲ以テ代用納付シ得ヘキ歳入金ノ種目	下	九五
省	七	大藏省 元金及利子仕拂期ノ開始セル無記名國庫債券同利札ハ租稅 其他ノ歳入金ニ代用納付スルコトヲ得ル件	下	九二
省	一五	北海道罹災救助基金法施行手續	中上	六一七
省	一六	巡查看守退隱料及遺族扶助料法ニ依ル給與金ニシテ國庫ノ 負擔ニ屬スルモノノ支給ニ關スル件	上	三九〇
省	三八	道府縣罹災救助基金管理法	中上	六一五
訓	二二	法令ノ規定ニ依リ國庫ニ於テ收入スヘキ代用證券取扱方	下	九六
訓	二六	北海道罹災救助基金毎年度現在高報告方	中上	六一七
訓	二七	北海道地方費ニ歸屬シタル罹災救助貸與金取扱要領	中上	六一八
告	四四	國債證券及利札ヲ以テ代用納付シ得ヘキ租稅其他ノ歳入金 ノ種目	下	九四

明治三十九年  
法律

法	二四	官國幣社經費ニ關スル法	下	四五九
法	三二	屠場法	中下	九七七
法	三三	地租條例ヲ北海道ニ施行スル件ニ關スル法	下	一五六
法	四七	醫師法	中下	一〇一九
法	四八	齒科醫師法	中下	一〇四六
勅令	四八	日本藥局方調査會官制	上	一五五
勅	五三	警視廳官制	上	一六八
勅	七九	府縣社以下神社神饌幣帛料供進ニ關スル件	下	四五八
勅	九六	東京府知事ヲシテ警察署長警察分署長ヲ指揮監督セシムル ノ件	上	一九四
勅	一三三	北海道地方費ヨリ給料給與ヲ受クル吏員職員ノ退隱料退職 給與金遺族扶助料支給規定ニ關スル件	中上	四〇九
勅	一五〇	韓國政府ニ聘用セラル、者ニ關スル件	上	三二九
勅	一七一	屠場取締ニ關スル職員ノ件	上	二〇三
勅	一七二	屠畜取締ノ費用負擔及検査手数料ニ關スル件	中下	九八五
勅	一八七	神宮司廳職員ト神部署職員トノ間ノ轉任ニ關スル件	上	三〇七
勅	一九四	北海道地方費ノ吏員ニ關スル件	中上	四〇九
勅	二〇九	南滿洲鐵道株式會社東洋拓殖株式會社又ハ鴨綠江採木公司	中上	四〇九

編年目次

勅	二二六	ノ職員ト爲リタル官吏ニ關スル件	上	三三〇
勅	二一九	月俸三十圓未滿ノ判任官ノ俸給ニ關スル件	上	二三八
勅	二二〇	領事官ノ取扱フ登記ノ登録税ニ關スル件	下	一九〇
勅	二四四	神社寺院佛堂合併跡地ノ讓與ニ關スル件	下	四一四
勅	二四五	醫師法ニ依リ免許ヲ與フル者ニ關スル件	中	一〇二九
勅	二五九	齒科醫師法ニ依リ免許ヲ與フル者ニ關スル件	中	一〇五二
勅	二六七	巡查給與令	上	二六八
勅	二六八	地方産業ニ關スル技師技手並試験場講習所及種畜場職員ノ名稱待遇任免及官等等級配當ノ件	上	二〇一
勅	三〇六	地方産業ニ關スル技師技手並試験場講習所及種畜場職員ノ休職ニ關スル件	上	三二七
勅	三一三	滿韓在勤文官加俸令	上	二四三
勅	三一八	廳府縣屠畜検査技師技手ノ休職ニ關スル件	上	三二七
五月十一日	三二八	臺灣樺太韓國清國等ニ在ル者ノ徴兵身體検査ニ關スル件	中	五九〇
勅	二	日米間著作權保護ニ關スル條約	中	八五〇
省	二	衛生事項中警視廳主管事項	上	一七五
省	一六	屠場法施行規則	中	九八〇
省	一七	屠場ノ構造設備標準	中	九八二

省	一九	府縣社郷社村社ニ供進スヘキ神饌幣帛料ノ金額	下	四五八
省	二〇	北海道及市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル府縣社郷社村社ノ神饌幣帛料ニ關スル件	下	四五九
省	二二	北海道移住民規則	下	七三七
省	二七	醫師法施行規則	中	一〇三三
省	二八	齒科醫師法施行規則	中	一〇四八
省	三〇	醫師法ニ依リ免許ヲ與フル國指定	中	一〇二九
省	三三	醫師會規則	中	一〇二五
省	三四	齒科醫師會ニ醫師會規則ヲ適用スル件	中	一〇五一
省	三六	毒藥劇藥品目	中	一〇〇〇
訓	六	渡船業許否並其他ノ事項ニ關スル警視廳東京府主管事項	上	一七五
訓	七	水上建設物並街路使用許否ニ關スル取扱方	上	一七六
訓	八	警視廳主管事項中東京府ニ合議スヘキ事項	上	一七六
訓	一五	屠場法施行規則ノ禁印及檢印雛形	中	九八三
訓	一八	北海道移住民ニ關スル規程	下	七三八
告	四四	警視廳高等官俸給令第二條ニ依ル警察署長俸給區別指定	上	二四八
告	五七	北海道移住民ニ對スル汽車汽船ノ特別取扱方	下	七三九
省	一一	農商務省 獸疫検査規則	中	九四〇

勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	勅	
九七	九六	九五	九四	八四	八三	八二	八一	八〇	七九	七八	七七	七六	七五	七四	七三	七二	七一	七〇	六九	
漁業法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件	樺太漁業令	施行	會計法行政執行法治治安警察法出版法及質屋取締法ヲ樺太ニ施行	司法ニ關スル法律ヲ樺太ニ施行	樺太ニ於ケル土地管理規則	樺太ニ於ケル政府工事及物件買入借入ニ關スル隨意契約ノ件	樺太國有土地管理規則	樺太ニ於ケル技師屬技手増置竝囑託員雇員使用ノ件	郵便法郵便爲替法郵便貯金法鐵道船舶郵便法及電信法ヲ樺太ニ施行	沖繩縣及島嶼町村制	樺太廳ニ於ケル技師屬技手増置竝囑託員雇員使用ノ件	沖繩縣間切島竝東京府伊豆七島及小笠原島ニ於ケル名稱及區域ノ變更等ニ關スル件	樺太廳職員特別任用令	樺太ニ在勤スル文官ノ加俸ニ關スル件	樺太廳職員特別任用令	樺太ニ在勤スル文官ノ加俸ニ關スル件	樺太廳職員特別任用令	樺太廳職員特別任用令	樺太廳職員特別任用令	樺太廳職員特別任用令
F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
七五	七六	七五	七五	三七	七五	七六	七五	七五	七五	四五	二一	四五	四五	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四

勅	法	法	法	法	法	法	法	法	法	省	省
勅令	勅令	勅令	勅令	勅令	勅令	勅令	勅令	勅令	勅令	陸軍省	文部省
六	四九	四三	三四	三一	二五	二二	一八	一一	五	一九	一九
公式令	統監府關東都督府及樺太等在勤巡查看守及女監取締ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法	森林法	租稅其ノ他ノ收入徵收處分囑託ニ關スル法	國庫出納上一錢未滿ノ端數計算ニ關スル法	樺太ニ施行スヘキ法令ニ關スル法	樺太ニ於ケル租稅ニ關スル法	樺太廳特別會計法	官廳ニ於テ印刷局製造ノ物件買入ニ關スル法	官廳ニ於テ印刷局製造ノ物件買入ニ關スル法	三十九年勅令第三百十八號ニ依ル徵兵身體檢查ニ關スル規程	圖書館ニ關スル規程
上	上	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
一一九	三九二	三三四	二四六	八六	七五一	七六二	八六	八九二	六一	五九一	七二九

勅	九八	明治四十年法律第三十一號第四條第二項ニ依ル命令ノ件	上	八八
勅	九九	港務部設置ノ件	上	一九四
勅	一〇〇	海港檢疫並輸入獸類檢疫及検査上管轄外ニ於ケル地方長官ノ職權ニ關スル件	上	一九七
勅	一二四	樺太廳巡查ノ在勤手當給與品及貸與品ニ關スル件	上	二七〇
勅	一五六	臘虎臘獸獵法ヲ樺太ニ施行	上	七五七
勅	一五七	樺太海豹島ニ於ケル臘虎及臘獸獵獲禁止	上	七五七
勅	一七二	樺太廳ニ鐵道書記ヲ置クノ件	上	二一五
勅	一七三	樺太ニ於テ鐵道ニ從事スル判任官特別任用ノ件	上	二九八
勅	一七七	官吏待遇者ノ懲戒ニ關スル件	上	三三八
勅	一八六	官役職工人夫扶助令	上	四四二
勅	一八九	四十年法律第四十九號ヲ適用セサル巡查看守及女監取締ニ關スル件	上	三九三
勅	二一七	市町村立小學校教育費ヲ補助セシムル爲北海道地方費及府縣費支出ノ件	上	七一九
勅	二三三	鑛業法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件	上	七七〇
勅	二三四	樺太鑛業令	上	七七一
勅	二四三	港灣調査會官制	上	一五九
勅	二四四	月俸三十圓未滿ノ判任官待遇者ノ俸給ニ關スル件	上	二三九

勅	二四五	明治四十年法律第三十一號第七條ニ依ル公共團體指定	下	八八
勅	二五七	陸軍刑法海軍刑法等ヲ樺太ニ施行	下	七五八
勅	二六二	癩患者ノ救護ニ關スル費用ノ支辨追徴及負擔ニ關スル件	中下	八九八
勅	二七二	道廳府縣事務官ノ補職及官等ニ關スル件	上	二九九
勅	二七三	道廳府縣事務官特別任用ノ件	上	二九九
勅	二七四	府縣事務官補特別任用ノ件	上	三〇〇
勅	二八五	四十年法律第十一號第八條ニ依ル國庫補助ノ件	中下	八九九
勅	二九四	海外諸港又ハ臺灣ヨリ來ル癩患者ノ取扱ニ關スル件	中下	九〇〇
勅	三二八	行旅病人及行旅死亡人取扱法ヲ樺太ニ施行	下	七五九
勅	三四九	北海道保安林ニ關スル特例	下	三六八
省	一	官國幣社會計規則	下	四七一
省	二	臺灣地方稅支辨ノ文官判任以上ノ學校職員退隱料及遺族扶助料ヲ受クル者内地ニ轉居又ハ採用ノトキ取扱方	上	四二九
省	三	北海道地方費吏員ノ服務紀律進據方	中上	四〇九
省	四	海港檢疫並輸入獸類檢疫及検査ノ執行ニ關シ福岡縣知事ノ職權行使區域	上	一九八
省	五	樺太ニ於テ免許ヲ受クヘキ漁業ノ種類	下	七七八
省	七	藥品營業並藥品取扱規則第三十八條ノ三ニ依ル藥品指定	中下	一〇〇三



省	二二	樺太ニ於ケル租税ノ種類及課率	下	七六二
省	一三	海港檢疫法施行規則	中	九〇五
省	一九	癩豫防ニ關スル件施行規則	中	八九五
省	二〇	癩患者療養所設置區域	中	八九七
省	二二	案内業者取締規則	中	七一〇
省	二二	府縣郡市町村ノ人口及府縣郡會議員配當ノ件	中上	四七八
省	二六	改選後ノ府縣會議長選舉會ノ件	中上	一八四
省	二七	藥品營業並藥品取扱規則第二十六條第二十七條及第三十七條ノ三ニ依ル命令	中	九九九
省	二八	何レノ藥局方ニモ記載セサル藥品又ハ製劑ノ製造輸入發賣方	中	一〇〇五
訓	一	官國幣社各社共通金ヲ以テ營繕費ヲ支辨スル建物ノ種類	下	四六〇
訓	二	臺灣地方稅支辨ノ文官判任以上ノ學校職員退隱料及遺族扶助料支給ニ關シ取扱方	上	四二九
訓	三	樺太ニ於ケル巡查ノ配置及勤務方	上	三四三
訓	〇	樺太廳職員旅費規則	上	二八一
訓	一九	賣藥免許鑑札同請賣鑑札同行商鑑札	中	九八九
訓	三九	長崎縣下口ノ津港及巖原港ニ長崎縣港務部出張所設置	上	一九七
告	七六	神社祭式行事作法	下	四四七

訓	陸軍省	甲一	徵兵處分ヲ受クヘキ所在不明者調査規程	下	五八七
省	文部省	三〇	市町村立小學校教員住宅費補助ニ關スル規程	下	七二〇
省	農商務省	一一	森林法施行規則	下	三五二
省		三〇	森林法施行手續	下	三六〇
省	明治四十一年				
法	法律	三	沖繩縣ノ負擔及國庫補助ニ關スル法	中上	四七六
法		一七	陸海軍召集諸費繰替支辨ニ關スル法	下	六四五
法		二三	神社財產ニ關スル法	下	四六三
法		三五	樺太廳立小學校教員退隱料及遺族扶助料ニ關スル法	上	四三一
法		三七	地方稅制限ニ關スル法	中上	四八二
法		五〇	水利組合法	中上	二四四
法		五七	北海道國有未開地處分法	下	三九〇
勅	勅令	七	警察官及消防官服制	上	四五四
勅		八	巡查服制	上	四五八

勅	二五三	二五九
勅	二五四	七六〇
勅	二六六	一三二
勅	二八六	三九六
勅	二八七	三九六
條約	四	九七
條約	四	九五
條約	五	八五四
省	二	四五七
省	四	八五七
省	二	四三五
省	五	四七六
省	六	四七三
省	一六	七八〇
省	一二	四六五
省	一三	二六三

内務省

官國幣社神職俸給規則

沖繩縣間切島並東京府伊豆七島及小笠原島ニ於ケル名稱及區域ノ變更等ニ依リ村ヲ廢置分合シ其ノ區域變更ノ場合ニ於ケル規定

沖繩縣及島嶼町村制ノ施行ニ際シ取扱方

樺太ノ小學校ニ關スル件施行方

神社ノ財産登録及管理並會計ニ關スル件

水利組合豫算調製式及費目流用其ノ他財務ニ關スル件

勅	九	六〇五
勅	四三	四一六
勅	四五	七七九
勅	六一	六四五
勅	七一	四三二
勅	九三	五八六
勅	一一九	五二四
勅	一五〇	三九四
勅	一七七	四六四
勅	一八二	二三四
勅	一九一	二七一
勅	一九二	七五六
勅	二〇一	八五三
勅	二二二	七五八
勅	二五二	七七六

陸軍六週間現役兵條例

沖繩縣區制

樺太ニ於ケル小學校ニ關スル件

陸海軍召集諸費支辨方ニ關スル件

樺太廳立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給ニ關スル件

人口二十萬以上ノ市ニ於ケル兵事事務ニ關スル件

河川法ニ依ル河川ニ關スル工事ノ爲不用ニ歸スル土地ノ處分ニ關スル件

北海道國有未開地處分法施行規則

神社財産ノ登録ニ關スル件

宮内高等官ヨリ高等文官ニ任用セララル者ニ關スル件

水利組合吏員ノ賠償責任及身元保證ニ關スル件

刑法法施行法及監獄法ヲ樺太ニ施行

關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ於ケル特許權意匠權商標權實用新案權及著作權ノ保護ニ關スル件

陸軍刑法陸軍刑法施行法海軍刑法及海軍刑法施行法ヲ樺太ニ施行

漁業法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件

省	省	省	省	省	訓	告	告	訓	訓	省	省	省	省	省	省
一四	一五	一六	一七	一八	二〇	一九	一八	一六	二〇	陸軍省	陸軍省	陸軍省	陸軍省	陸軍省	陸軍省
水利組合吏員服務紀律	市町村ニ於テ民勢調査ヲ爲スノ際申告ヲ拒ミタル者等處罰方	警察犯處罰令	樺太ニ於ケル漁業組合規則	樺太ニ於ケル水産組合規則	沖繩縣及島嶼町村制ニ依ル町村吏員懲戒ニ關スル件	假出獄取締細則ニ依リ交附スヘキ旅券及證明書雜形	樺太ニ於ケル巡查誓約期限	樺太移住民ニ對スル汽車汽船特別取扱方	沖繩縣及島嶼町村制ノ直接國稅ノ種類	森林法、河川法、砂防法ノ規定ニ依リ一定ノ行爲ヲ許可シタル場合通知方	陸軍六週間現役兵條例施行細則	人口二十萬以上ノ市ニ於ケル兵事事務ニ關シ陸軍省諸令中	東京市京都市大阪市ニ關スル規定ノ準用方	陸軍召集諸費支出規程	陸軍召集諸費支出規程
中上	中上	中上	中上	中上	中上	中上	中上	中上	中上	中上	中上	中上	中上	中上	中上
二七三	一三〇	七八四	七七八	七七八	七七八	七七七	三一一	七八〇	四七三	一六二	六〇七	五八六	六四六	六四六	六四六

訓	告	省	省	省	省	省	省	法	法	法	法	法	法
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
陸軍省	陸軍省	陸軍省	陸軍省	陸軍省	陸軍省	陸軍省	陸軍省	陸軍省	陸軍省	陸軍省	陸軍省	陸軍省	陸軍省
陸軍豫備役後備役補充兵役ニ在ル島司郡市區町村長其他官職ヲ有スル者通報方	陸軍豫備役後備役將校同相當官准士官下士兵卒歸休兵補充兵演習召集教育召集施行年次及日數	人口二十萬以上ノ市ニ於ケル兵事事務ニ關シ海軍省諸令中	東京市京都市大阪市ニ關スル規定ノ準用方	海軍召集諸費支出規程	假出獄取締細則	軌道條例ニ依ル願書差出方	明治四十二年法律	沖繩縣罹災救助基金法	軌道ノ抵當ニ關スル法	耕地整理法	種痘法	印紙犯罪處罰法	印紙犯罪處罰法
中上	中上	中上	中上	中上	中上	中上	中上	中上	中上	中上	中上	中上	中上
六四〇	六四一	五八七	六四九	七六八	五六五	六一八	五六六	二八五	一〇六八	七九二	七九二	七九二	七九二

勅	一九〇	公證人法ヲ樺太ニ施行	下	七五六
勅	二二三	産業組合中央會ノ設立及事業ニ關スル件	中	二九五
勅	二二四	鑛業法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件	下	七七一
勅	二二八	北海道國有林野及未開地並ニ其產物賣拂代金延納ノ件	下	三九八
勅	二三一	耕地整理事業ノ引繼及耕地整理組合ノ變更ニ關スル件	下	三三六
勅	二三二	耕地整理法第四十三條第三號ノ規定ニ依ル公共團體指定	下	三三八
閣	六	軌道抵當取扱規則	中	五六七
省	二	樺太ニ於テ鑛業ヲ許可スヘキ區域	下	七七四
省	四	樺太廳立小學校教員退隱料及遺族扶助料取扱規程	上	四三三
省	五	退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者犯罪若クハ就職ノ場合ニ於ケル通知方	上	四三四
省	九	沖繩縣區制沖繩縣及島嶼町村制ニ依ル區町村吏員服務紀律	中	四五〇
省	一〇	沖繩縣區制沖繩縣及島嶼町村制ニ依ル區町村吏員賠償責任及身元保證ニ關スル件	中	四四九
省	一一	主務大臣ノ許可ヲ要セサル北海道地方費令ニ依ル事件	中	四〇八
省	一三	印紙犯罪處罰法第五條ノ官沒ハ警察署長同分署長ヲシテ之ヲ爲サシム	中	七九三

法	四一	新聞紙法	中	八〇二
勅令	一九	感化法第十一條ノ二ニ依ル國庫補助ノ件	中	六四二
勅	二〇	沖繩縣ニ關スル府縣制特例ノ件	中	一八六
勅	二二	港務部職員服制	上	四六〇
勅	二三	關稅法關稅定率法及噸稅法ヲ樺太ニ施行	下	七六〇
勅	三一	勅令中沖繩縣ニ付設ケタル特例ニ關スル件	中	四七七
勅	五四	島嶼ヲ置ク島地指定	上	二〇〇
勅	一一六	印紙犯罪處罰法ヲ樺太ニ施行	下	七六〇
勅	一二一	煙草專賣法ヲ樺太ニ施行	下	七六一
勅	一二五	內務省ニ臨時職員設置ノ件	上	一四三
勅	一三三	新聞紙法ヲ樺太ニ施行	下	七五七
勅	一四八	樺太廳郵便局官制	上	二一七
勅	一四九	明治三十一年勅令第三百十七號(通信手航路標識看守俸給並三等郵便局長手當ノ件)ヲ樺太廳特定郵便局長ニ準用ノ件	上	二四四
勅	一五二	砂糖消費稅法及非常特別稅法中織物消費稅ニ關スル規定ヲ樺太ニ施行	上	七六一
勅	一七八	砂糖法ヲ樺太ニ施行スルノ件	下	七七五

省	一五	新聞紙法ニ依リ管轄地方官廳ニ納ムヘキ保證金ニ充ツルコトヲ得ル有價證券ノ種類	中	八〇九
省	一九	病院醫院其ノ他診察所治療所ノ廣告ニ關スル件	中	一〇五二
省	二〇	懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倅ノ方法ヲ用ヒシコトヲ提供シ又ハ投票ヲ募集スルノ行為ニシテ公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムル者取締方	中	七一〇
省	二六	種痘施行規則	中	一〇七一
訓	三	各廳ニ於テ三十年勅令第三百七十七號及三十三年勅令第三百號ニ記載シタル行為ヲ爲サントスルトキ規定準據方	中	五二八
訓	七	炎暑ノ際警察巡閱ヲ行ヒ又ハ受クル者ノ服裝ハ常裝ヲ用フルコトヲ得	上	四六〇
告	二六	リベリヤ共和國及獨逸帝國保護國加盟	中	八四九
告	二八	樺太廳及其所屬各官廳執務時間	上	三三九
告	二七九	種痘施術心得	中	一〇八〇
大藏省	二一	沖繩縣罹災救助基金法施行手續	中	六一九
省	二四	市ニ於テ郵便振替貯金ニ依リ國稅金ノ受拂ヲ爲サントスル場合ノ件	中	一一九
訓	一二	沖繩縣罹災救助基金每年現任高報告方	中	六二〇

訓	二八	耕地整理地取扱手續	下	三三八
陸軍省	三五	陸軍六週間現役ニ服スヘキ者ノ年齢計算方	下	六一一
司法省	二二	種痘法第八條ニ依ル符號記入方	中	一〇八二
文部省	九	市町村立小學校教育費國庫補助法第三條ノ市町村立小學校ノ本科正教員數及市町村立小學校ノ本科正教員ニシテ五年以上同一府縣内ニ勤績者數	下	七一八
農商務省	二	耕地整理及土地改良獎勵費規則	下	三三二
省	三五	産業組合法施行規則	中	二九一
省	三九	耕地整理法施行規則	下	三〇五
省	四〇	耕地整理ニ關シ地方長官ヘ委任ノ件	下	三三一
省	三七	國有林野耕地整理施行地區編入手續	下	三三一
省	四〇七	耕地整理法又ハ同法施行規則ニ掲ケタル土地原簿權利者名簿組合員名簿事業報告書收支豫算書收支決算書換地説明書及圖面調製方	下	三三二
遞信省				

6685

明治四十三年三月廿五日印刷  
明治四十三年三月三十日發行

### 內務大臣官房文書課

印刷者 野村宗十郎

東京市京橋區築地三丁目十一番地

印刷所 株式會社東京築地活版製造所

東京市京橋區築地二丁目十七番地

省

一五

市公金受拂ノ爲ニスル郵便振替貯金特別取扱規則

中上

一二七

3072  
2

法規類抄編年目次終

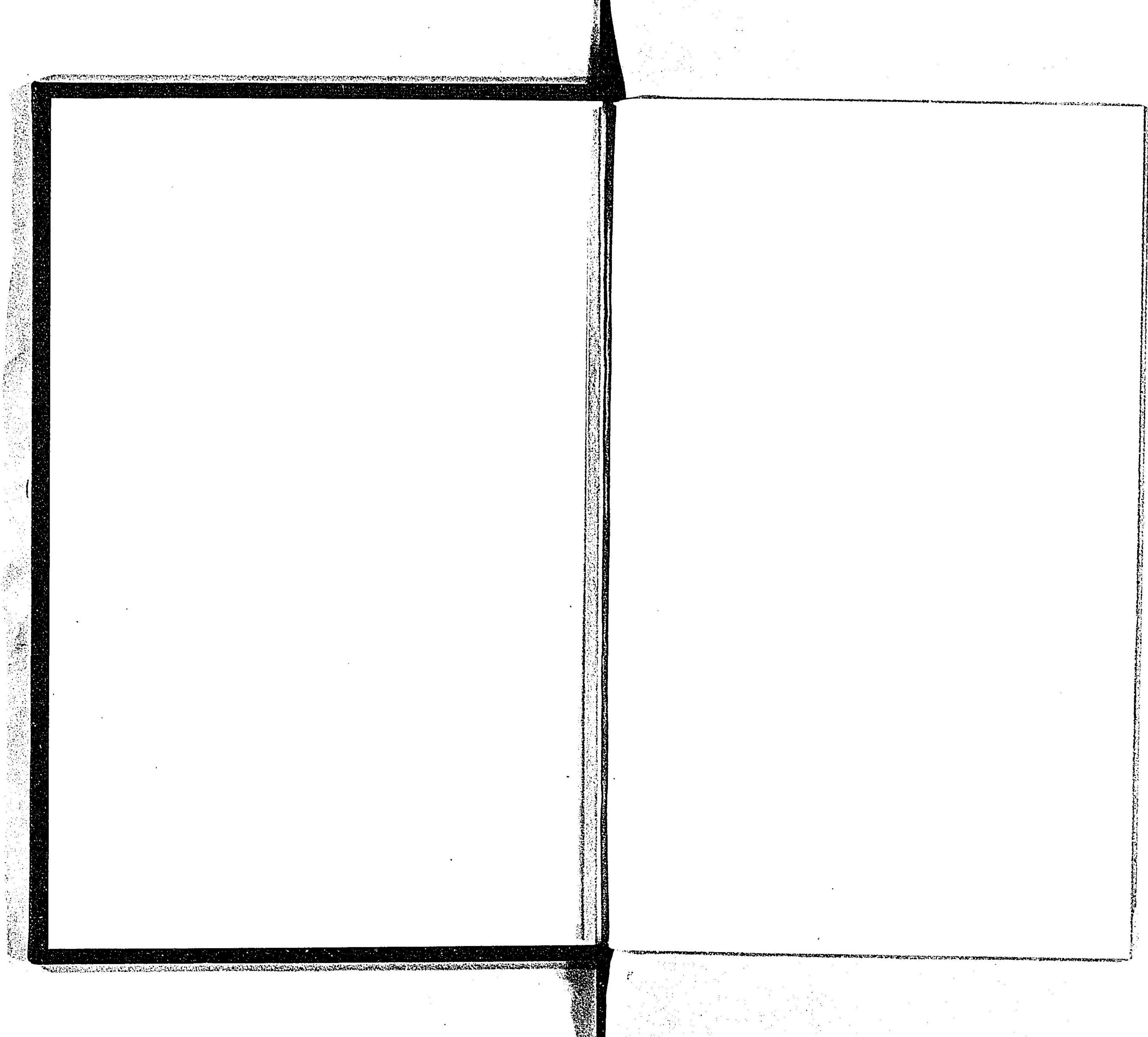
七四

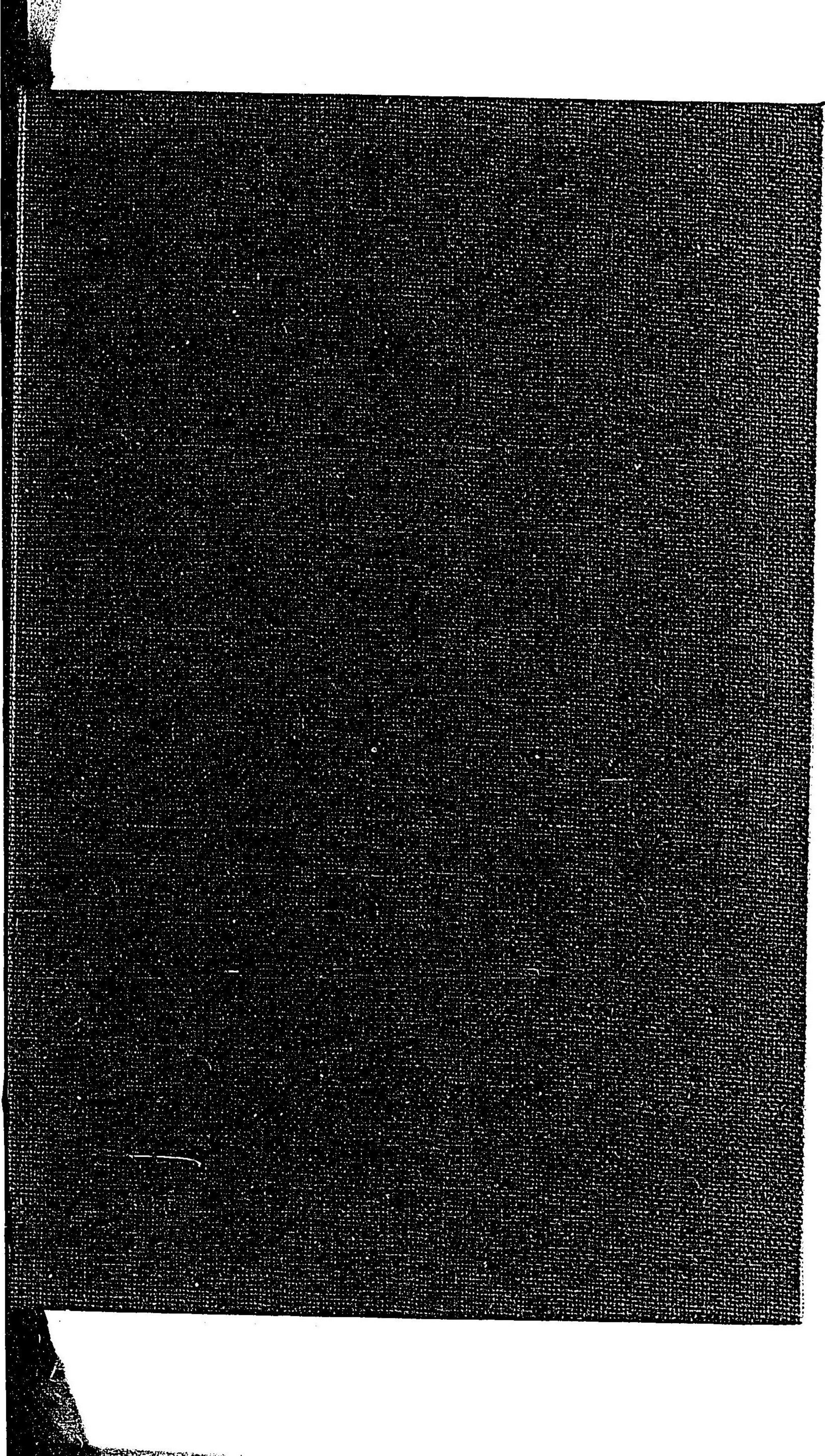
4#+

B-49

.....







禁電子式複写

031118-010-3

CZ-5-016

法規類抄

内務省総務局

M23-43

BBC-0937



